新眞婦人

SHIN SHIN FUJIN

新眞婦人

九月號

〔第廿九號〕

婦人の積極的修養　西川文子
戰亂と女子の覺悟　女子大學教授　松浦政泰
婦人就職範圍の擴大に就いて　鹽澤昌貞
日本婦人の顏の研究　性相研究大家　西村卜堂
結婚まで性交縱慾の人種　西川光次郎
頸球　モーパッサン
婦人と劇　中村春雨
乾燥せる生活　女子美術學校教授　谷紀三郎
オフィスの窓から　中尾清太郎
避暑地より　玉珉女

大正四年九月一日發行（毎月一回一日發行）大正二年四月二十六日
第三種郵便物認可）大正四年八月二十八日印刷納本

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

看護婦見習生募集

年齢十八歳以上
學力尋常小學卒業以上
品行方正ニシテ傳染病ヲ有セザル女子ニ限ル

院長診察　月、水、木、金、午前
林、峰間、兩副長ハ目下當院に在勤

東京麴町區三番町三十番地（市ヶ谷見附内）
電話番町六二番
東洋内科醫院
院長　醫學士　高田畊安

電話ちがさき二番
南湖院
相州茅ヶ崎海濱（從停車場半里）
河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤
院長診察土曜日午後。入院、診後應需

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

九月號目次

表紙（平和の家庭に咲く四季の花）　菊地八峰筆
口繪　いろ〳〵の婦人
婦人の積極的修養　西川文子…（一）
悲しき日　なほ子…（六）
戰亂と女子の覺悟　女子大學敎授　松浦政泰…（七）
婦人就職範圍の擴大に就て　法學博士　鹽澤昌貞…（八）
日本婦人の顏の研究　西村卜堂…（一一）
結婚まで性交嚴禁の人種　西川光次郎…（一四）
戰爭と私生兒……（一八）
天理敎祖觀を讀む……（一八）
頸珠　モーパッサン…（一九）
婦人と劇　中村春雨…（三四）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

避暑地より　玉露女…（三五）
乾燥せる生活　女子美術學校教授　谷紀三郎…（三九）
富士詣　晶山生…（四一）
夜の幻影　白兎女……（四二）
オフイスの窓から　中尾清太郎…（四三）
精神能率増進法、健康能率増進法……（四六）
秋と沈默　白兎女…（四七）
十二歳から二十一歳迄の女（續）　みをつくし…（四九）
日記から　有田俊文……（五三）
南總より　東大寺多代……（五四）
私信數通……（五四）
編輯餘錄……（五五）

九月一日發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

高島平三郎先生新著

最新刊

婦人の生涯

現代の婦人の生涯ほど複雑で危険で多事多難でそして變化の多い者はない此書は少女より妻となり母となり老婆となる迄各時期の生活の特色を擧げてそれに基く婦人の活動方面を說明し警戒した者で穩健淸新なる高島先生の最善の著述なり

紙數四百頁餘
布製箱入
定價壹圓四十錢
送料八錢

最新刊

奥様と女中

高島平三郎校閲序　福鎌恒子著

良い女中が無くて困るとは到る處で聞く奥様の御嘆息ですが良い女中は自然に轉がつて居る者でなく奥様が養成なさる筈の者です此書は良い奥様が「苦心して良い女中を養成された實驗に基き春夏秋冬晝夜朝晩微に入り細に亘つて女中の心得を說き且奥様の注意を促した女中讀本兼奥様讀本で有り升

布製箱入美本
定價金六十錢
郵送料金六錢

發行所　東京市麴町區平河町五丁目　振替東京二〇一九一四番　洛陽堂　電話番町四二五八

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

最新刊

婦人必讀書

○今日爲すべきこと
日本女子商業學校學監 嘉悅孝子先生著（好評第十版發賣）
洋綴絹表紙上製 箱入全一册
正價金九拾錢
送本料金八錢

○女子のふみ
閨秀作家 與謝野晶子女子著（好評第十版發賣）
洋裝清洒優美裝打
正價金四拾五錢
送本料金八錢

文學博士 南條文雄先生著

同情の力

中判上製箱入美裝 全一册
正價金壹圓貳拾錢 送料金十二錢

文明の駸々は時代の澆季を意味す。活潑たる競爭場裡に立ちて誰か道德を思ふ者有らんや。宜なる哉。得意の人失意の客、只是劒を拔き戈を逆さまにして相競ふ、見よ一は殺伐に流れ一は慘怛に終らずや我南條博士の道德は一世に高し、深く此韮薄を憂ひて此高著を公にせらる、所說流暢にして且つ醇々、得意の人失意の客、共に讀むべく、讀んで偉大なる同情の力に浴し、以て光輝灼々たる樂人生に入るべし

婦人必讀書

○姙娠十ヶ月
醫學士大友道之先生 產婆指田たね子先生著 姙婦解剖模型入（好評五版出來）
和綴極美上製
正價金六拾五錢
送本小包金八錢

○育兒三年（一名小供を健全に育つる秘訣）
醫學士高橋毅先生 哺育會長伊藤常子先生共著
和綴極美上製全
正價金六拾五錢
送本料金八錢

發兌
東京市日本橋區檜物町
振替口座東京二三〇番
弘學館
大阪市淡路町五丁目
金正堂

產科婦人科小兒科

鷲山改め
女醫 吉岡彌生

院長診察 宅診午前 往診午後

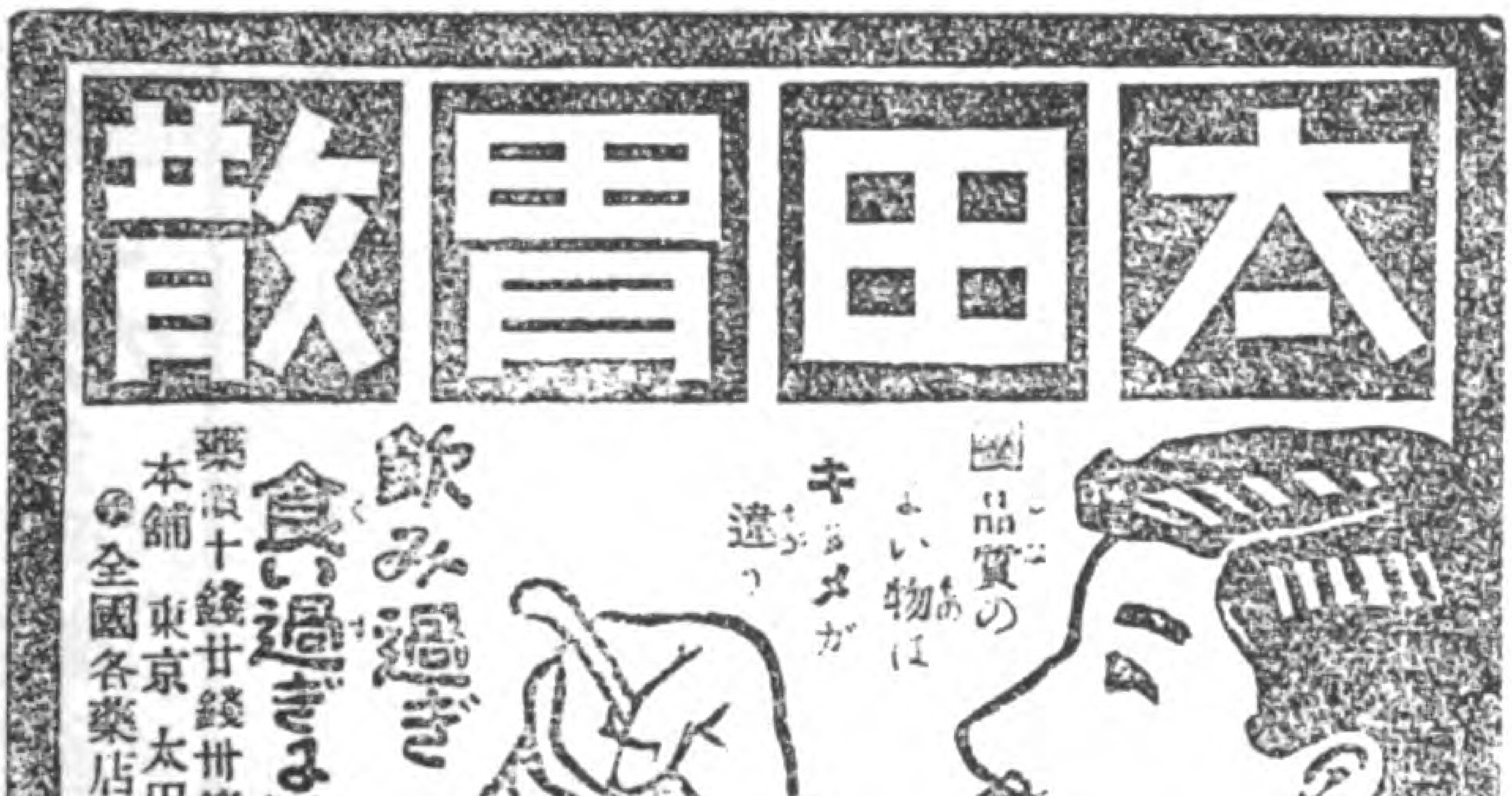
醫員診察 午後

產室及病室の設けあり隨時入院の需めに應ず

東京麴町區飯田町四丁目卅一番地

東京至誠病院

（電話番町二二五七番）



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ビスケット
ドロップス

品質優良にして好評嘖々たり

近來當會社製品に模擬したる粗惡品を製賣する奸商あり御注意御排斥を乞ふ

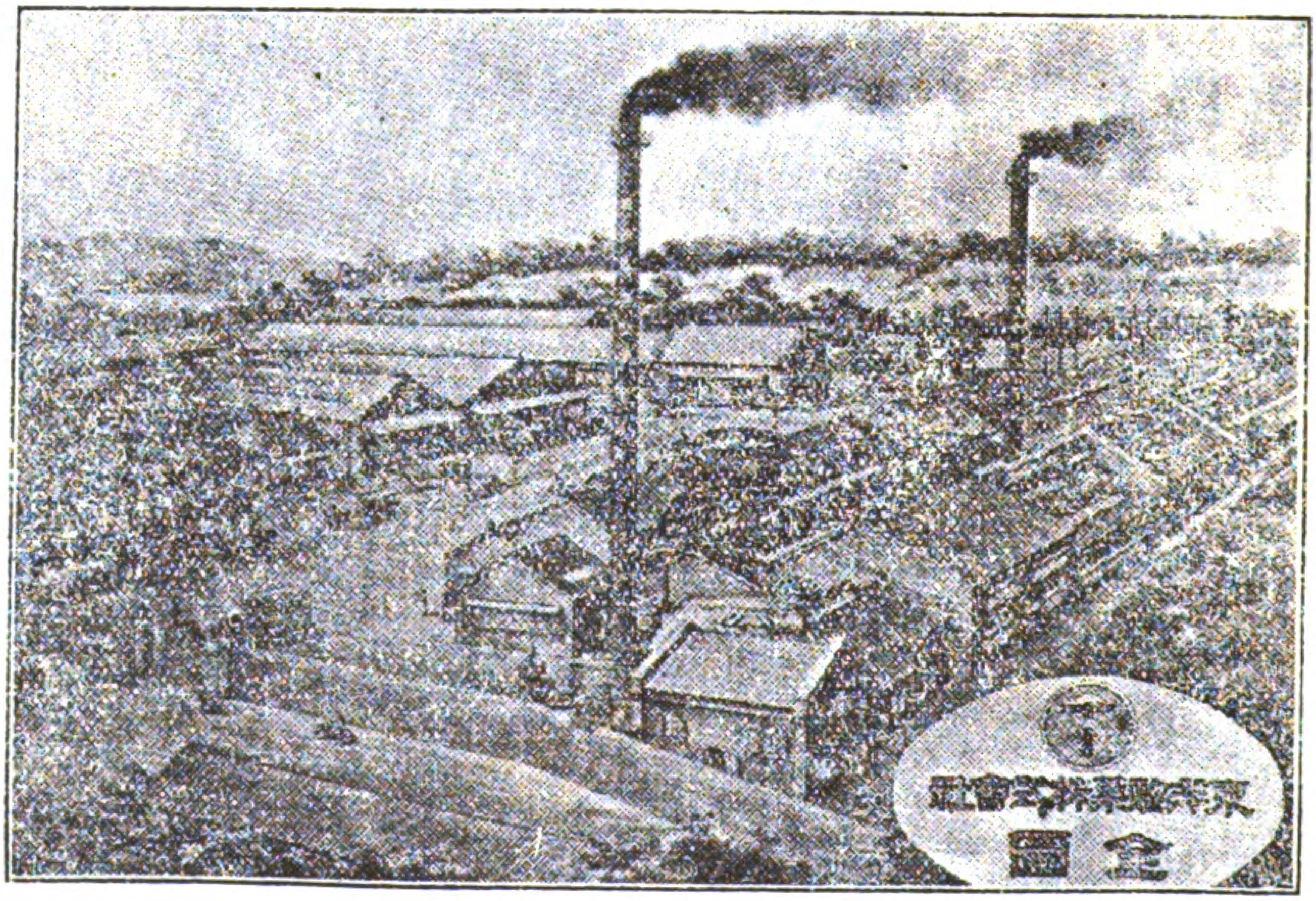
新製品

ピクニック

壹個 金五錢

ピクニックは野外散歩。遠足。運動會等に携帯行糧として至極適當

當社製造品は到る處信用ある菓子舗食料品店に在り



東京品川御殿山

東洋製菓株式會社

電話芝二三三番

貴族式化粧料
皇后陛下
各宮妃殿下御嘉納
二條公　土方伯　大原伯　御後援
鍋島侯爵令夫人御詠贈
外國の人もきそいてためすらん
ならぶものなきこの化粧水
東京淺草
ミルド商會
電話下谷二〇一六
ミルド化粧液
いろを白くしキメをこまかにする學理的化粧水
小久保臼杵
兩醫學博士證明
五學士協力創製

日本婦人の顔の研究（參照）

向て右より、入澤博士夫人、鳩山春子氏、長谷川時雨女史（上段）、岡田八千代氏、奥村五百子氏（二段目）、田村俊子氏、山脇房子氏（三段目）、江木榮子氏、下田歌子氏、玉露女史（四段目）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

宮内省御用達

最上醤油元祖

ヤマサ醤油

開業二百七十一年

釀造元

濱口儀兵衛商店

千葉縣銚子港

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

東京市麹町區內幸町一丁目三番地
電話新橋長二一〇、二一〇一番
振替貯金口座　東京一八、九〇〇番

太平生命保險株式會社

社長　中村靜嘉
專務取締役　楠秀太郎
取締役　村井貞之助
取締役　內野五郎三
取締役　前川善平
取締役　倉知誠夫

取締役　左右田棟一
取締役　舟木錬太郎
監査役　潮田方藏
監査役　左右田信一郎
監査役　中田敬義

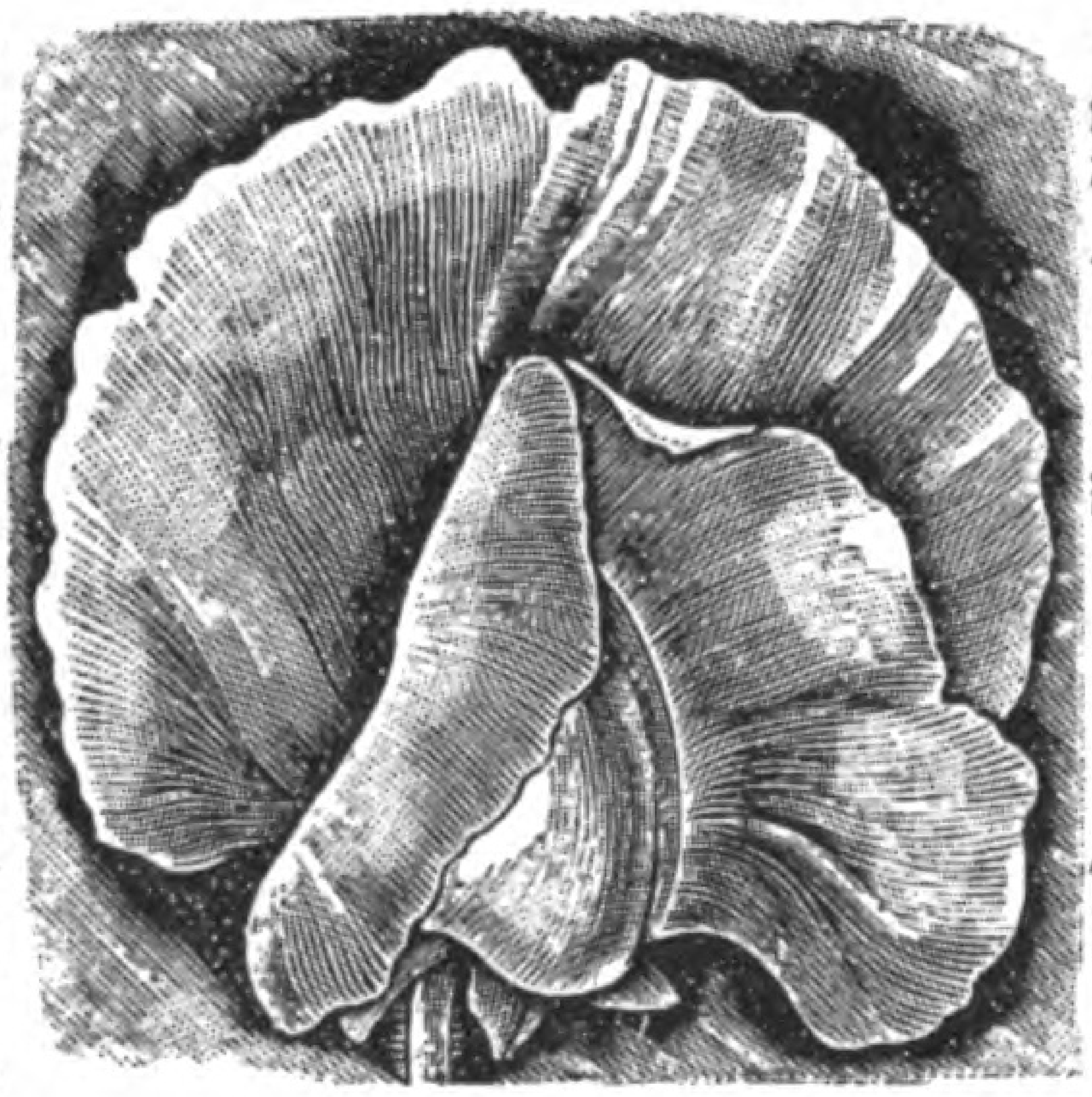
草花の培養は婦人に最適の樂娯なり

華美艶麗 秋蒔草花種子

御注文は最寄郵便局にて振替貯金用紙を申受けおもてに金高(種子代金に登記料一錢を加へ)御住所御氏名うらに御注文品名數量を御記入現金御拂込あれば直に御送り屆け可申候

●パンジー 一袋二錢
三色すみれと稱す草丈四五寸黄紫白の三色交り濃艶大輪の美花を開き花容恰も蝶の舞ふが如きを以て遊蝶花とも書く誠に愛らし鉢にうつして室內に飾り又花壇に植ゆ

●スヰートピー 一袋二錢
蔓性にして丈三尺より五尺に伸び五月より開花す赤、絞、紅、黄、空色、淡紅等色彩多様頗る艶美を極め且つ香氣あり鉢植又は垣に纒はしめて觀賞す



●シヤスタデジー 一袋五錢
高さ二尺花は雪白目ざむるばかり頗る大輪周圍一尺に餘り春より秋迄咲き續く鉢植地植花壇何れにも適し切花とするも水上げよろしく長く保つ

●帝王貝細工 一袋二錢
花は貝細工の如く黄金、紅、黄樺等あり極めて丈夫切花に適す葉枯るゝも花は變らず

●スターフロックス 一袋二錢
高さ一尺內外多數の枝を出し晩春より秋迄星形の奇花を滿開す白、紫、赤、桃色等いろ〱に配合其美云はん方なし切花盛花襟挿等に可なり

●フロックスドラモンデー 一袋二錢
星形フロックスと同一種なれども花は桔梗形をなし紅白紫等相交りて甚だ美なり

●はるしや菊 一袋二錢
夏秋の候丈け二尺位に伸び黄紅、赤、樺等の花を開く甚だ美麗にして花壇鉢植切花によし

●カンチタフト 一袋二錢
高さ六寸より八寸四月開花す一本より數莖乃至十數莖を出し純白の小花を群生す頗る美麗鉢植花壇何れにも適す

●金盞花 一重、八重、萬重 各一袋二錢
一名長春菊と稱す初夏より秋末まで濃黄色、樺色又は黄金色の大輪絶美の花を開く鉢植によく地植によく切花とするも水上極めてよろし

●大輪金鷄草 一袋二錢
初夏の頃高さ一二尺に達し一重黄色、心に近き部分暗褐色又は深橙色若くは暗紅色の極大輪美麗なる花を開き開期長く切花によし

●小町草 一袋二錢
濃き櫻色の小花枝を出すこと多く各枝頭に必ず開花す花容彼岸櫻に似て優雅なり切花として水上げよろし

●西洋大輪八重オダマキ 一袋二錢
夏季白紫の奇形なる美花を開く其艷麗なる世に定評あり宿根草にして切花に適す

●八重飛燕草 一袋三錢
飛燕草又千鳥草の八重なるもの夏季紫、白、桃色等の美花を開く切花に最もよろし

●香金魚草 一袋二錢
金魚草の香氣あるものの色は鮮紅、黄、黒、紅、絞り、白等種々あり六月より開花す花の美麗なる世に定評あり

●八重撫子 一袋二錢
花は八重大輪色彩種々皆美し丈け一尺內外莖頭に開花す花期非常に長く盆養に適し又切花花壇に植ろも美麗なり

●大輪牡丹げし 一袋二錢
五六月の頃莖の高さ三四尺に達し赤、白、紅、黄、紫、緋、絞り等の妖艷なる大輪の美花を開く切花裝飾用に最適す

●矢車草 一袋二錢
丈高く切花に好適し花は紫色又は黄色形狀矢車の如し

●天人菊 一袋二錢
六七月頃より黄、赤、白、絞り等の品よき花を開き秋迄咲きつゞき切花によろし

●花菱草 一袋二錢
花形の大なる在來種に三倍し花色に紅、白、黄の三種ありて頗る鮮美を極む清雅淡白眞に花の上々なるもの彼岸に播種し蒔付のまゝをよしとす

○西洋美女撫子 一袋二錢
五六月頃丈け一尺に達し莖頭に美麗なる多數の小花を簇開す非常に艷美なり花は桃色、朱、赤、絞り、覆輪等種々あり花期長く切花として水上げよく鉢植にもよし

資本金七十萬圓

東京內藤新宿電車終點際
振替貯金口座東京三〇番

日本種苗株式會社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

産科
婦人科

篠田病院

（入院随意）

女醫 篠田せい子

本郷區丸山新町

電話下谷四〇六八

リウマチス

▲難病にてあらゆる療法効なく御困りの御方に不思議に早く治る弊店家傳の……秘藥を御報らせします、御全快の皆様から日々澤山の感謝狀を下されます

東京市淺草觀音
仲見世。天勇横通

井筒屋油店

電話下谷……三一五番
振替口座一九六五二番

皮膚科　梅毒科

泌尿器科　腎、膀胱、尿道、睾丸、攝護腺ノ疾患

生殖器科　男女生殖器機能障害

婦人科

日本橋區通二丁目白木屋出口前

電本局三九八〇番

中嶋醫院

院長 ドクトル メヂチーネ 中島鎌太郎

新設 芝區田村町十三番地愛宕下町通り

中嶋醫院

面白く為めになる講談雑誌の親玉

講談倶楽部

九月號

定價一冊廿五錢 郵税二錢 ・ 六冊前金郵税共金一圓五十錢 十二冊前金郵税共金二圓八十錢

義氣侠氣 時雨念佛…平井晩村

時雨そぼ降る日、哀れに泣き叫ぶ夫婦のものを見た林藏は、侠氣殺氣、全身に漲り、身を挺して奸を斬ると云ふ血あり涙ある物語

新講談 高橋お傳…筑波四郎

明治初年、淫婦、妖婦、毒婦として、世の耳目を聳動せしめた高橋お傳の偽らざる事歴は作者の輕快な筆に依つて誌上一段の花を添ふ。

敵討 清願寺原…岡柳惟一

恩か仇か？ 金か戀か？ 篇中不思議の邂逅あり、悲しき訣別あり、不德の毒刄あり、正義の利劍あり、巡る因果の盡くることなき長篇新講談。

口繪挿畫 華麗豐富

○荒木又右衛門 ○義士傳 ○逸話 ○演藝注進藏 ○漫畫豐富 ○金言集

★

數百圓の大懸賞募集 ★

□夢の市郎兵衛（侠客）……仰天子
□母を尋ねて（小説）……畠山秋更
□矢口の渡（熱情）……夢想兵衛
□玄冶店の慘劇（新講談）……無水庵
□彌次喜多膝栗毛（浪花節）……中川海老松
□大通伯爵猛太（浪花節）……妻川歌燕
□揚羽の蝶次（侠客）……坂東太郎
□ハイカラ（侠客）……柳家燕生
□義人功績（講談）……洞殿司
□戀愛（活動寫眞）……二木生
□女義太夫評判記…岩崎櫻花士
□名古屋花柳便り…澤田雅月
□釜どろ（落語）……夢の助
□ペンキ學校…萬年筆
□相談倶樂部…記者
□東西名人鑑
□小話一束

★

本郷駒込坂下町四八
講談社
振替東京六二六九

創立明治九年
資本金五百萬圓
積立金參百四拾萬圓

東京市日本橋區小舟町

株式會社 第三銀行

電話浪花 四四二 四五一 八二〇 四五六〇 四五六一

監督 安田善三郎
頭取 安田善四郎
常務取締役 安田善八郎

進歩せる通經劑

卓効ある流經藥

月やく下し ピルロイン

婦女子必携藥

本劑の有效成分なるアロインは胃中にて作用せす腸に至て始めて膽汁と合し益々其效力を發揮し有力なる流經藥となり

子宮内に作用し月やく止り血塊も害なく下ろ婦人令孃安心服用あれ

定價壹圓卅錢　貳圓五拾錢　特別製參圓五拾錢貨拾貳錢

東京市本郷湯島四丁目拾四番地

ヴ井ナス商會

風流珍菓

江戸みやげ

▲せん茶、ビール、御酒の友

市内は金五十錢以上一御注文を頂きますと直に…自轉車にて御届けいたし升

製造本舗

東京市京橋區入舟町四丁目五番地

進世堂

電話京橋一九五九番

醫學博士　北里柴三郎監修
醫學博士　柴山五郎作著

最近之肺結核療法

醫學博士北里柴三郎閲

第十四版　紙數二百餘頁　正價一圓廿錢　郵稅金八錢

最近學說衞生講話材料

續篇出來全三册　ポケット入　正價金一圓八十錢　郵稅金八錢

學校衞生講話材料

正價金卅五錢　郵稅金四錢

醫學博士大澤謙二閲　關以雄編

内外諸大家の學説を收攬し分衆及家庭に於ける衞生講話を爲さんとする人々の材料に供し特に學校敎師諸君が修身敎授の材料に應用し衞生家諸君の演説講話の參考に利用せらるべく其他種々の方面に賞用せられ殊に大澤北里兩博士親しく校閲せられたるものなれば事實の正確なるを知るべきのみ

發行所　東京市神田鍛冶町

誠之堂

振替東四七七二

既婚未婚の男も女も

是非知って居られねばならぬ

木村醫院 女醫 木村與野子女史
勳七等 產婆 河原林須賀子女史合著

近來惡雜の僞物あり有文堂發行に御注意

最新刊

姙娠圖解女產婆

原態巧妙圖二葉
實物寫眞圖廿入

懷中持新式組總布製紙質上等紙數三百五十頁金文字入天金裝幀淚に千鳥高尙極美

定價一圓八十錢一萬五千限

特價壹圓十錢

送料密封十錢淸朝臺外卅錢

從來の類書はお產を大厄とし猥りに難產病に罹らしむる傾きあり。弊堂斷然見る所あり各專門の兩先生に乞ひ多年の經驗と實際より結婚前後より姙娠の原理、お腹の胎兒敎育及び安々と安產法より生兒養育法等に至るまで細大漏らさず親切丁寧に說明し貳十餘の鮮明密圖と共に何人にも了解し易く實に天下模範の大快著なり此際早く幾百萬人の必讀書なり。

內容目次の一部。男女生殖器の具合。作用。女子天授の職責。大切なる子宮。卵巢の形。結婚と姙娠。安じるより產むが易い。不姙娠の場合。全治法。男女骨盤の大小。生殖器の成熟期。月經時と卵。如何にして受胎するか。後の經過。姙娠日數。善い兒を產む法。胎兒月々の體量。子宮內の胎兒の位置。起り易き。姙婦體內變化。流產と早產の原理。夫婦關係から來る流產。姙娠初期の徵候。飮食と運動。着帶儀式と近來の腹帶法。產床の拵へ法。分娩時の身體の構へ方。前知、姿勢、我慢すべき事。後產の濟む迄の時間。入用品。價格。小兒の抱き方。搖り方。眠させ方。小兒を强健にする法。產婦の入浴と着物。小兒の着物と季節。病氣と手當。入浴のさせ方。回數。月代と爪。湯の溫度を知る最良方法。產褥中の精神安慰、心得。乳母を撰擇する時の心得。人乳、牛乳、煉乳の注意、小兒と玩具。色の配合。乳首と小兒の口の格好。齒の保護。胎兒の胎內敎育。其實例。惡兒は父母の責任。姙婦と良人。靈妙なる精神の働き。胎敎と精神の感應等內容目次の概略以上數百種。

室井喜佐子女史著
杉浦非水畫伯裝幀

嫁ぐ娘へ

最新刊如湧稀有の大好評

菊半截紙數二百頁表紙奉書木版十度手摺美本正價四十五錢送料六錢

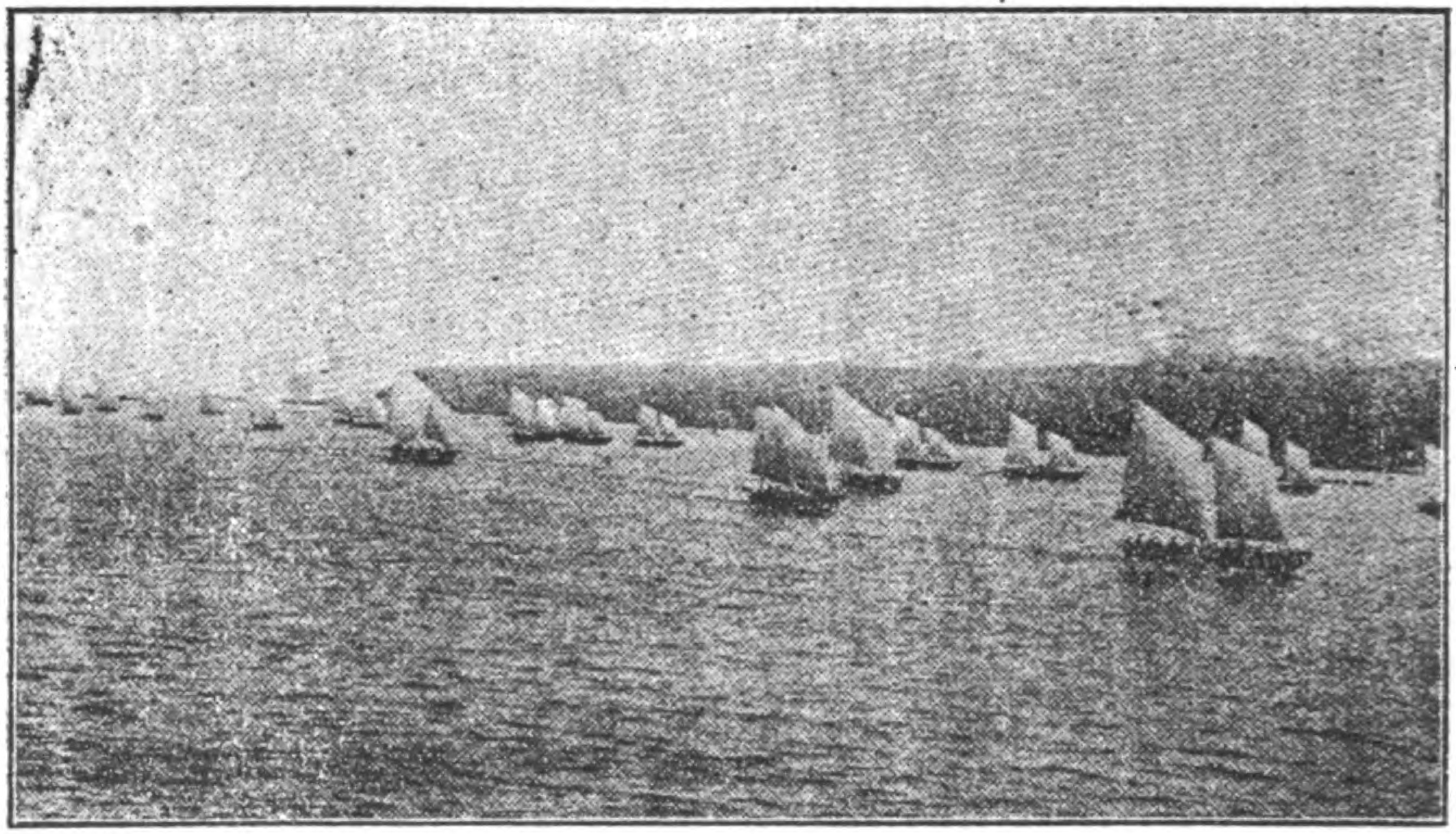
東京神田區
五軒町一八

有文堂書店

電下長二四五二番
振替東京二三七番

賣捌各大書店

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



婦人の積極的修養

西川文子

奇形な家庭の夫婦關係研究（二）

中根澄子の姑殺しに就て

先月號に奇形な家庭の夫婦關係として田村俊子さんの家庭を研究しました、私は、毎號さま〴〵の奇形な狀態にある家庭の研究をしたいと思ひます。

先月始め頃横濱で工學士夫人中根澄子が姑を殺さんとした殺人未遂事件が突發しました。其の原因は澄子は體も弱く短命であらうと思ふし、賑やかな華やかな事を好む爲めに、せめてもの慰めに女優になつたのです。無論夫たる工學士も承知で夫婦の間柄は非常に親しかつたのです。處が工學士のお母さんはそんな浮いた職業をする嫁は家風に合はぬと云つて喜ばれなかつた、それもお母さんが郷里にある間こそ無事ですんだが、上濱して見ると、果して洋裝をしておめかしをする毎日夜おそくまで出歩く、體が弱いから養生の爲めだと云つて御馳走は食べる、一々昔風のお母さんには氣に食はぬ事だらけでした。さて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

お母さんはいよ〳〵郷里に歸るから夏羽織を拵らへて呉れと工學士に云つた處が拵へてくれないのを無理に澄子がねだつて十圓貰つて上げたと、さも恩に被せる樣に云つたのが癪に觸つたと云つて、お母さんは私の息子は私のものだから私が思ふ樣にして見せると云つてどうあつても、澄子を離縁する樣にと迫つた。工學士は仲々聞かなかつた最初はお母さんが何と云はれても私が承知してゐるからと云つて居たがどうあつてもと云ふ母の嚴談と威壓に止むを得ず承知して、澄子には『仕方がないから歸つて呉れ』と申渡し、母からは『乾度もう間違はなからうね』と駄目を押されて出勤したのである。送り出した澄子も、出て行く夫も『さようならご機嫌よう』とふるえ聲で云ひ交はしたと云ふ位だから、二人の間に愛の息吹の通つてゐたのは云ふ迄もないことだから、澄子も今少し落ついて考へればよい善後策も浮んだであらうが、其の前夜も一睡もせず神經は興奮し疲勞してゐるし、母讓りの精神病遺傳さへあると云ふのだからたまらない、箪笥の引出しを片付けながら見付け出した九寸五分と剃刀とを帯の間にはさんでおいた。それを後に姑を見るなり背に投げつけたと云ふのである。私はかゝる澄子の行爲は勿論甚だ惡いと思ふ。又夫も眞に澄子を愛して居るならば母親に諄々として、其趣味性格により澄子の日常生活の恕すべきことを説き聞かせたならば、如何に頑迷な老母と雖も萬更判らぬこともなかつたであらう、又斯し透して快よく郷里に歸して了へば無事に事は運ぶのであつたものを、從來男子は斯かる家庭の小些事嫁姑の間柄等に就て關與すべきものでないと云ふ樣な妙な習慣のある所から、工學士の用意の不充分であつたと云ふ罪は免かれぬと思ひます。けれども眞の原因は姑が嫁を理解する事が出來ず、強ひて自己の思ふ樣に壓迫しやうとしたのが最も惡いのです。かゝる例は姑と嫁との關係のみではない、所有社會の舊い男女はかゝる筆法で若い婦人をいつも責てゐるのです。各人の生活は各人の責任であるから、他人や社會に危害を加へない限り各人の自由であらねばならぬ筈です。處がなか

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なかさうは行かない、殊に田舍などにあつては、何でもない事までも、あそこの夫婦は始終一よしに外出するとか、朝寢をするとか干渉がましく惡評したりする、それがうるさいので都會に行きたい／＼と云ふ人がどれ丈けあるか知れないのです。そんな事も都會では少ないからよほど氣樂であるが、西洋などでは猶更他人の趣味嗜好には干渉がましい世評がない、だから老人でも赤い着物を着やうが、派手な風をして歩かうが好き自由だと云ひます。我國でもだん／＼さうなつて行く傾向はあります、生活方法は各人の個性により、職業により趣味嗜好により、異ならねばならぬのは當然で、おしる粉の好きな人がおしる粉ばかり食べてゐるからとて、おそばの好きな人がおそばゝかり食べてゐるからとて、他人の與かり知る處ではありませんし、豆腐屋は朝早いがそばやは夜おそいから朝もおそいのです、つまり各人都合のよい樣にするのが本當でしやう、女優や藝妓は美くしい着物を着てぶら／＼遊んで歩いてゐる樣に見えてもそれが彼等の仕事なのです、又さる特種の人でなくても、夫が學者、研究家であつて夫人は其助手となるべく、讀書、書きもの、調べものをして、家事の仕事が出來ぬとすれば、夫の爲めには非常な補助になつてゐるに拘はらず、姑は夫と一しよにばかり居ると不平を云ひ、又夫が音樂好きで每夕共にピヤノオルガンでも彈いて歌つてゐて、姑に其趣味がなければ、用もない遊び事に時を費やし、而かも自分一人のけものにしてゐると面白からず思はれるでしやう。其の通り他人の行動を理解することの出來ない爲めにかゝる悲劇がどれ丈け起るか知れない、衣食の世話をしたり家庭向の用事のみをするのが女の道と云ふ規定であるならば、能く行き届いた嫁と云はれる爲めには右の如き夫人は、夫の眼を盜んでは家事向の用事をしなければならず、姑の眼を盜んでは夫の手助けもしなければなりません。

斯かる現象は現今特有の新舊思想の衝突とか、過渡時代だからあると云ふわけのものではない、いつの時代にも、時代、年齡境遇、趣味、敎育の差によつて起

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る葛藤です。たゞ各人の生活は各人の個性心身の强弱に依り、强い人は多く寝なくてもよいが弱い人は多く寝なければならず、又食物も種類も自から異ならねばならぬから、母子骨肉と雖も干渉すべきでないと云ふ事さへ理解さるればよいのです。要するに中根澄子の姑の如きも夫婦さへ親しければ結構だと云ふ樣に心が廣く大きかつたらよかつたのです。澄子も如何に周圍から壓迫されても健全な心身をもつてゐればもつと穩健な堅實な處置が出來たでしやうが病的な肉體と心理狀態であつた爲めにかくヒステリー的行動になつたのは寧ろ同情に堪へないわけです。

奇形な家庭の夫婦關係（三）

消極的良妻

私は或夫人からかう云ふ問をされました。

『從來私共の家庭では收入の大半は夫の小遣になり、家族一同大勢の生活費、小遣一切をかてゝ加ても夫の小遣丈にも當らないのです、女はつまらないものではありませんか、これまで夫や小供にさへ食べるものも食べさせ、着るものも着せてゐれば私は何でもよいと思つてゐましたが、此頃よく〳〵考へて見ると、これではならぬ、夫が妻を大事がらず、妻自身我身を構はず粗末にするのはつまり夫にも小供にも不忠實だと思ふに至つた』と云はれました、私も全くさうだと思ひまして『小供ばかり如何に大事にし、夫にのみ仕へたからとて妻たり母たる自からを粗末にしては、小供の敎育にも困り、病氣でもすれば却つて迷惑ではありませんか、全く自覺すれば自重しなければならぬ、自身の爲めに自尊しなければならぬそれがやがて夫なり子供の爲めにもなるのです』と答へたのです。私の近處にかう云ふ家庭があります、夫は難かしい赤ん坊の樣に手のかゝる人で、夫人は氣立てのよい人で朝から晩まで眞黑になつて立ち働いて居られます、百圓位の月給取で二十圓近くの家に住んでゐる其の主婦はどんな下町の長屋のおかみさんにも見られない樣なべと〳〵

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の風で、寢着も、晝着も一枚の浴衣ですまし、髪は雀の巢見たいでも一向構はないのです、それで育ちが惡いかと云へば立派な家の一人娘で、夫は入聟同樣なのです、全く夫人の人柄の善過ぎて、遠慮すぎるのです、小供が五人もあつて、生活費にとて夫の入れられるのは月給の半額です、それではとても足らないので、其不足分は夫人の持出しです、其の上夫は病身だからとて毎日〳〵仕出し屋の樣に御馳走にかゝり切りです或時夫の友人が來て『あれは何か妻君か？』と云はれても『まさか女中だとも云へないし、妻君だと云ふにはあまりの風だし、まあそんなものさ』と云つたと云はれた相です。又夫は『君がもつとしやれて吳れるとい丶、さうすると僕は酒を止める』と云はれると『もつとしやれましやうか、まさかこの髮で、小供が多くてしやれてもゐられません』と云はれる此夫人はまだ年も三十前後であるが、入浴とては月に二度位だ相ですこんなのはあまり極端であるから如何に犧牲獻身消極的婦人道德を奬勵さる丶人でもあまり感心されないであらうが、これ程でなくても成丈け自身の爲めには殘りものや、有合せものですます婦人は進んだ立場から見るとこの夫人と五十步百步です。婦人だからとて心を養ふ爲めにも體を養ふ爲めにももつと積極的にあつて欲しいものです、小供の小さい時にはまだよいとしても、小供ももう十四五にもなり中學校女學校にも通ふ頃になれば、母親自身が日々の事に追はれてゐて勉强も修養も出來なければ、どうして小供にのみ勉强せよ〳〵と云はれましやう、小供の敎育はさておき何等の相談相手にもなれなくなります。

社會的にも積極的修養を望む

主婦の立場から考へても自身一家の爲めにたゞに勤勉なるのみならず、夫の社交、事業などを考へて婦人も積極的になつて欲しいと思ふが、婦人自からの立場から、考へても自分は社會改良をしたい、宗敎事業に從事したい、婦人問題に盡したいと云ふ樣に社會的に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

積極的活動する樣に修養したいものと思ひます。それでも自分は一家を整理しなければならぬから、自から手を下すことの出來ぬ人は、それ〴〵専門家をして、我が身代りに働いて貰ふのであると思つて補佐し、或は家庭の餘暇に助力するなど所有便宜を其人々に向つて與ふる杯の心懸を修養したいと思ふ。嘗て本誌で紹介した我國に古くから來朝して育兒に從事しつゝあるジョンソン孃を、アメリカの友人で孤兒の養育を志してゐた婦人が、遂に結婚するに至つたので、夫に土地を少々乞ひ請て毎年苺を栽培して得た金額を送りて助けられしと云ふ樣に、其他基督敎の傳道者の爲にもかかる補助者のある話は多く聞く所です。それでこそ遠大なる永遠に渡る事業も立派に成し遂げられるのですなか〳〵どんな仕事でも一人でする仕事は知れたものです。我國では男子でさへ社會事業公共事業と云ふ觀念が乏しいのだから、況して婦人にさうした積極的修養の欠乏してゐるのは云ふまでもありません。それは從來の貞女道、良妻賢母など云ふ敎の多くが消極的の婦德をのみ説いて來たからにも依りましやう。私は今後の婦人は我身に對しても、家庭に於ても、社會に向ても積極的修養が肝要だと思ひます。從て社會から婦人を見る眼も變つて來なければなりません。(八月十五日夜)

悲しき日

なほ子

親しき中にも禮儀ありとか、相州育ちの嫂は家の中を淋しく悲しいものにして了つたとさゝやくものがあつた、長い旅の間に父の老を感ずるさへあるに、斯かるさゝやき、私はものうげに行きては泣き、泣きては又すさみ行く家を思ひ、身のはてを思ふ、妹等のつみなき笑、折々は泣く聲に悲しき涙のたゆるなし、只一人殘る友を訪へば「六月發行になつた同窓會の雜誌を先日始めて見た」とて私の持つて行つた雜誌を開かうともなさらない、失望して歸る時、御送り下さつたのがなほ私を泣かせるのみ、悲しみに滿てる故郷、さらばとて都に生きる力なきあはれなる子を、知る人は同じく都に住みて居るか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

戰亂と女子の覺悟

女子大學　松浦政泰

▽將來の危機　そのドヾの結果は神ならぬ身の豫想は出來ないが歐洲の大戰亂昨今の趨勢を以てトすれば、我が帝國の前途には一大危機の横はつて居るかの感が切である。遠くは朝鮮征伐に元寇殲滅に近くは日淸の役、日露の役に常に優渥なる天祐を受けて百戰百捷の好運を贏ち得たるも、今後は少くとも一回子息の時代か孫の時代には上下戰慄するやうな事のある覺悟で、大正の男女は大いに腰に帶せねばならぬ。

▽女子敎育の眞義　は第一、直接に女子其者の各能力の發揮で、之に由つてその良人を幇助し子女の敎養に資し、理想的家庭の實現を計る事であるが、第二には間接に人種改良の實を擧ぐる事である、人種改良の重大は、方今世界の輿論であつて、所謂『偉人の母は賢』といふ見解から見ても、優良人種を作る上に、男子よりも一層重大な責任のある女子の能力を練磨し、人格を向上せしめねばならぬ。

▽四つのＨ　余は思ふ。女子の敎育は四個のＨが必要であると。四個のＨとは頭腦（Head）と心情（Heart）と健康（Health）と手工（Hand）とで、此内最も大切なのは最初の三つである。然るに近頃女子敎育に關する一般の思想は、多少保守的に傾いてきて、女は『裁縫』が出來ればよいといふ見地から子女を敎育する。所謂裁縫專門の學校は、手工のみの敎育で、頭腦の如き心情の如き、所謂人格敎育は槪して疎んぜられて居る。是れ地方女學校の裁縫敎師が、動もすれば一校風紀紊亂の因をなしたり寮舍騷動の種子を蒔いたりする所以である、然るに近眼者流の多い世の中、實科女學校の全盛を見る、かゝる現象は今回の世界大動亂の影響の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一として、恐らくは變つて來るだらうと考へる。又變らねばならぬと思ふ。

▽女子の健康　健康增加の一方法は慥かに體操である運動である。保守的感想勃興の結果として、近頃女學校の運動會が衰頽に傾いて居る。女子敎育從事者は女學校に於ける體操と運動との奬勵には、極力盡さねばならぬと思ふ。『健全なる母は健全なる子を產む』は言を待たないではないか。

▽頭腦と心情　卽ち智力の發揮と性格の修養とは、今後の良妻と賢母に大に缺くべからざる者である。性格敎育の必要はいふまでもないが、余は少し思ふ所あつて、女子敎育には寧ろ頭腦開發を奬勵したく思ふ。

　獨逸今日の隆盛の大部分は此點にありはすまいか。而して我が國女子の一大缺點は此點にありはすまいか

▽高等敎育　之を要するに戰後の女子の覺悟は、高等敎育にあるのである。余は我が國の輿論も慥かに此の方向に變つてくる、又變らねばならぬ事を確信する者である。

婦人就職範圍の擴大について

法學博士　鹽澤昌貞

　私の言ふ勞働は大きい意味ですが、近年工業が發達して機械力應用の分業が盛んになるにつれ、從來男子勞働者を單位としてゐた經濟勞働範圍に著しく婦人が割り込んで來ました。然し日本の現在では工場工業は未だ頗る幼稚で貧弱だから、この先き戰後に於ける產業奬勵の結果、新工業の發展と共に婦人が各々適當な職を見付けて經濟上の活躍を促がすのは明瞭な事ですが、私は婦人が斯る職業區域に益々衣食活動するのを餘りに好ましい事とは思はない。元來女子の職業問題は必然の要求に依て現在の經濟狀態から已むなく發芽

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

した者であるが、或一部では婦人が自覺して職業に就くといふ傾向が有るか知らないが夫等は殆ど少數な事です。現今日本では幼少勞働者婦女勞働者の增殖を見或る種の工業勞働に從事して居るが夫等の者に對する社會の待遇は少々冷淡に過ぐるやうです。固より產業は分業によつて進むものなる爲、產業の發達と共に商工業の分業的範圍が擴大されて、職業の種目も多くなるであらうが、何れの方面に對しても婦人が男子と同等な步調を取らうとするのは不可能な事です。婦人の活動は地位境遇に應じて其方面は違ひましやう、中以上階級の婦人は出來る丈け社會的事業に眞面目に働いて貰ひたいと思ひます。特に幼少勞働者。婦女勞働者の問題などは中上流婦人の大に力を注ぐべき處でしよう、上流社會の種々な婦人會がある樣ですがこんな問題には一向關係しないのはどういふ譯でしよう、下層社會に對する救濟事業には上流婦人達の働くべき餘地が十分にあります。日本で婦人がまあ、家庭外の仕事に從事してゐるのは紡績工女、交換手、事務員敎員、記者、賣子、其他數限りないが、是等をもう一步廣く進んで、あらゆる方面に手を延し男子と其智力や體力や、猶勞銀までも競爭せんとするのは餘程考へものだと思ひます。

婦人が職業に就く際、其職業の方面が智識慾だとか趣味慾だとかの立場から、自覺と迄は行かぬとも、自己の最大慾を向上せしめ樣とするのは實に好ましい事だけれども、夫れが肉體的勞働だとすれば其麽に幸福な事ではないと思はれます。又夫に從事してゐる婦人にした所が或は自分の境遇を不幸だと悲觀して居るかも知れない。私は勞働に關して上品等といふ言葉を使ふのは大嫌ひですが、婦人が職業、殊に勞働に關する職業に就くならば、出來得る限り趣味を根柢とした、いゝつまり巧みを要する仕事に目を付けたならば、仕事も有意義だが、第一結果は非常な有効を齎らす事であらうと思ふ。私が先年米國に在留した經驗に依ると、米國の婦人勞働者、換言すれば少々高等な勞働者とでも言ふセールスガール、タイピスト、速記者とか、電信事

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

務だとか、コッピーを取るだとか、一般の秘書役等は殆ど若い婦人に專有されてゐた。然し夫れ等の若い女は自家經濟上から、已むなく仕事して、自活してゐるので自覺でも何でもない只必然の要求から生じ來つたに過ぎないのです。だから彼女等は皆が皆結婚の準備をすべき勞銀を得つゝあつて、一旦好配偶を見付けると直ちに其方に依るのです。彼女等は一體に獨立思想はあるが大した根柢があり主義が有つて主張して居りません。

丁度千八百九十八九年頃でした。米國がフリッピンを取つた時同島に教育普及を計らんが爲めに、多數の小學教師を選拔して送つたのです。勿論夫れは男女共でしたが、その時女教師連の志願者に對して、米國の新聞が載せた記事は實に私には意外の感を與へました、『女教師連はフィリッピンへ嫁入仕度を稼ぎにゆくのだ。東洋の獨身者が多數に在留してゐるから、其中に好い相手はないかと探しに行くのだ』一時の戯言とは云へ、衆人の認むる處がかういふ風なのです。

女教師には固より終生育英事業に獻身的に從事する者も有りますが、夫等は殆ど少數で、矢張り大ざつぱな意味に於ける生きんが爲め、婚せんが爲めの一つの職業と見做されて居るのです、兎に角米國婦人の獨立自營は、生活の激烈なる壓迫に會つて、自然の趨勢に然らしめられてゐる狀態です。

私の友人が當時或る婦人タイピストから、結婚を申入れられて間もなく式を擧げましたが、其婦人等も生涯獨身等とは思つては居なかつたさうです。

私は、貧富を問はず若い婦人が、自分の最も近き易い一つの職業に就得するのは、萬一の場合自活等の日に當つて、大なる用意となつて、大いに奬勵すべきだと思ひますが、其範圍が漸次擴大されて行つた時、廣い意味に於いて趣味問題に關聯して益々發展進涉するのは好い事であるが、然し婦人勞働者の增加は夫れ丈け婦人の不幸が增す事になりはしないであらうか。婦人が必要に應ずる覺悟にて、職業を漁るのは好いが多方面に妄りに男子の領域を犯すのは不利な事ではないで

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あらうか經濟上の問題を根柢とした時、趣味の問題を根柢とした時、この二つは全然相容れざるものであるから、其立場を確然と明瞭にして置いてから職業に對する自覺を判斷しないと大なる誤謬が生じて來るから夫れは呉れぐも注意すべき事だと思ひます。

（文責在記者）

日本婦人の顏の研究

性相學大家　西村卜堂

（一）

日本婦人の寫眞は極く近代のよりしかないから、系統的にお話をすることが出來ないが、假りに肖像畫によつて大體のお話をしましよう神代の肖像畫を見るに婦人も頗ぶる男性に近く、其の骨格にしても、皮膚の色にしても乃至は身體の大きさにしても、殆んど男子に劣つては居らぬ。

中古、元龜天正頃の時代となつても、尙ほ男も女も大きなものであつた、秀吉は當時小男と云はれて居た人であるが、阿彌陀が峯より其の遺骨を改葬した時に研究した人の話によれば、現代人に比すれば彼も巨人と云ふべきである。

併し德川時代になつてからは、男子も婦人も小さくなつた、之れは主として例の鎖國主義が日本人全體の精神に影響し、自然又身體にも影響を及ぼした結果であらう、德川時代の歌丸の書いた肖像畫を見るに、婦人の額は所謂富士見額と云つて頗ぶる狹まい。さて額の狹まいと云ふことは、要するに理性や見識が發達して居ないことを意味する。當時婦人はたゞ男子に屈服して居ればよかつたから斯くなつたものであらう。然かるに其の中、春日局或は淺岡とかの樣な女丈夫的の婦人の肖像を見るに、筋骨逞しくして身體大きく、眉は太く顴骨は出張り、額の幅は何れも廣い型を有して居る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

所が維新以後は婦人にも教育を施すことが盛になつて婦人の知能も啓發さるゝに至つた。其の爲めであらう、近來の婦人を見ると、額の廣い婦人が著しく增えて來たことに氣が付く。ソコで婦人の動作も變つて來た、私は每日の樣にコヽから日比谷大神宮で神前結婚を濟ませて、大松閣まで步いて來る婦人を見てゐますが、其の步き振りが大抵男同樣で、所謂八文字を踏で居る。而して凡て顏の道具立も荒くなり、優美と云ふよりも、權威を以て來た。一體生理的に云へば、多血質で脂肪の多い腹から腰へかけて太い、指でも根本の太い、先の細つそりして、顏は桃色を呈して居るのを婦人の正形としてあるのであるが、近來は婦人が男子の型に近かより、骨格逞しく手も大きく、肩も武張り丈も高いと云ふ傾向になりかけて來た。之れは一は前にも述べし如く智育の結果であつて、二には體育の結果である。

（二）

抑々顴骨が秀でゝ來たと云ふことは、婦人が氣力をもち、活動的の要素を備へて來た證據であつて、此の型の婦人には飽まで自分は男子に劣るものでないと云ふ自信のあるのが多い。元より婦人が活動的となり、何事でも堂々とやり切る樣になつて來たことは結構だが、たゞ婦人美の失はれ行くのが其の弊である。斯かる婦人は結婚をすると往々破鏡を見るものである、之れ脂肪足らずして自我が在り過ぎ、男性との調和がとれない爲めである。

斯種の婦人の中に、覇氣ありて而かも夫も大事にすると云ふ立派な婦人もあれば、中には又てんで結婚を欲しないものもある。ドンナ型の婦人でも配合さへ宜しきを得れば、結婚して不幸を見ないのであるが、同じ型のものが夫婦になれば子供が出來ないし、縱ひ出來ても幵が多くは不良少年となる恐れがある。

（三）

昔から婦人の眉は男子よりも高くついて居るのが多いと云はれて居る。此の間帝大の牧野博士が電車の中で、私は人の顏を研究するのを樂しみとして居るが、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

總じて婦人の眉は男子よりも高い所へついて居る云々と人に談つたと云ふことが、新聞に出て居たが、之れは新しい發見でも何んでもない。

さて眉の高いと云ふことは何にを意味して居るかと云ふに、其の觀察力ニブクして物事を輕信し易いと云ふことを意味して居るのである。されば男性の婦人にありては、何れも眉が比較的に下について居る。

昔は眉が上につく程高尚だと考て居たのでわざ／＼眉を剃つて殿上眉を書いたものである。其の位、高いのを好みしは、婦人はたゞ穩順しく、優美かで、男子に隷屬してさへ居ればよいとせられて居た爲めであらう。ソレで昔から普通の婦人は誘惑され易かつたのである。

（四）

ソレから婦人の鼻は細くて高い、所謂ローマンノーズがよいとせられ、眉は新月の如きをよいとせられ、眼は丸いのがよく、口は昔は小さいのを好んだ。口の小さいものは其の性質が消極的で、云ひたいことも云はずに居るからである。反對に例へば奥村五百子、下田歌子の如き性質の婦人は何れも口が大きい。演説の一つもしやうと云ふ婦人で口の小さいものはない。

美人の鼻は大抵高い、其の美人が古來多くは薄命なのは、どう云ふワケかと云ふに、鼻の高さに比例して自尊心が強よく其の美に醉さるゝ男子が多いのでよい氣になり、飽まで男子を玩弄物と心得て、少しも反省しないから年をとると共に立場を失うて了ふのである橋の際で袖乞をして居る、女乞食を見るに大抵昔はさこそと思はるゝ美人で、美人薄命の活見本である。其の全盛時代に威張り散らして後顧の計をせざりし爲めに斯くなつたのである。卽ち性格が運命を生んだのである。

廣く遊女、藝者などの耳を調べて見るに、彼等の多くは如何に全盛の美人でも耳の垂れが鬢の中へ這入つて居るのが多い、卽ちひつ張つた耳が多い。耳の斯く高くついて居るのは天祿のない證據であつて、されぱこそ彼等は藝者となり下て居るのである。尤も中には

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

何萬圓と金を蓄へ、立派な人の妻君となる幸運なものもあるが、ソウ云ふ婦人に限り耳が下つて居る。耳が上にあるものは徒らに高尚振り境遇の如何を論せずして威張るから惡いのである。

（五）

婦人が男性的になつて來たことは無論一面から云へばよいが、他面から云へばよろしくない。で私は斯かる御婦人方に、先づ生理的に脂肪をふやす工風を爲さいとおすゝめしたい、脂肪が増えれば自然に神經過敏でなくなつて、凡ての動作に圭角がとれて來る。

陶宮では癖を去れと云ふことを敎へる、之れは勿論結構だが、心理的に努力して癖を取ても絶えずとつて居ねば暫らくすると元の様になるから、身體から變へて行くに越したことはない。

形體は勿論精神の入れものであるが、先づ容器の改良が大切である。

男性的の婦人が、斯くして其の圭角を取去れば、玆に婦人として完成したものが出來るのである。

結婚まで性交嚴禁の人種

西川光次郎

亞弗利加大陸のズルース人種及び亞弗利加の屬島マダカスカルのホーバス人種は、白人の惡感化を受くるまでは、結婚まで性交嚴禁の人種であつた、若し彼等の間に、公然夫婦とならずして性交を爲すものあらば直ちに其の男女兩人を捕へて、生きながら野原に、首まで埋めて死せしめたものである、ソレで彼等の間には、今日文明人の間に見るが如き梅毒、淋病の如きは絶對的にあるなく、從て彼等は男女共に、揃ひに揃ふて見事なる體格を有して居たが、白人の惡感化を受て彼等の間にも所謂不義な性交、賣淫の如きが流行し始

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

むるや、忽ち彼等の間に梅毒、淋病などが猛威を振ふて、今では此の兩人種ともに、見ても氣の毒な人種となつて居ると云ふ。

古い事を引張り出して來て云へば、彼のスパルタ人の如き、其の強健にして飽まで勇敢なりしは、主として、結婚まで性交を嚴禁せしこと結婚後も性交と云ふことを節制せし爲めであつた。

世には、年頃になると性交をせねばならぬ、若し嚴禁せば大に其の人の健康を害するに至ると云ふものあれど、以上の如き先例が數限りなくあるばかりでなく、信用すべき醫學大家の中に、『縱ひ晩婚の場合と云へども、結婚まで性交を嚴禁して敢て不可なし、其の實例が無數にある』と云つてるものが多い。

六百六號の發明者
エールリヒ博士

此の禁を破りし結果や如何に

然かるに文明諸國の男女は、何れも多くは之れを破つて居る、さて其の結果や如何に、一人の不品行な婦人が、梅毒若しくは淋病にかゝれば、幾人の男子が其の病毒に感染するか知れない而して此等の男子が妻帶の後夫れぐ〜其の罪もない妻君達へ病毒を傳染せしむる、其の結果として花顏忽ち萎みて、其の婦人は見る影もなき痛ましさを見ねばならぬのであるが、之れよりも一層痛しきは斯かる男女の間に生るゝ小供の、多くは、盲目、聾、白痴氣違、不具、若しくは虚弱者たることである。

恐るべきは之れに止まらずして、梅毒ある人々の使用せし手拭を、知らずに使つたとか、彼等と握手したとか、若しくば單に接吻した丈けで、病毒が罪もない

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人に傳染するの恐れがあるのである。

斯くまで梅毒、淋病の恐るべきを思うて、青年男女は、いよ〳〵其の純潔を保つことに注意せねばならない。

告知病たらしめよ

青年の自制心に訴へるのも宜しい、又廢娼運動も宜しいが、尚は私は、此の恐るべき梅毒及び淋病の取締に就て、一言せねばならぬことがあるのである。

何れの文明國でも、猩紅熱、ヂフテリヤ、コレラ、ペストなどの如き傳染病は、之れを告知病と稱して、醫者は此等の病氣にかゝれるものを發見せば、直ちに其の筋へ告知せねばならぬことにしてある。而して直ちに患者を避病院に送り、其の家を隔離して消毒すると云ふことになつて居る。梅毒、淋病の傳染力は少しも以上の諸病に劣らぬのであるから、此の病氣も早く告知病とせねばならぬのである。今日の様に娼婦を檢黴する丈けでは駄目である、娼婦の檢黴を今一層嚴重にすると共に、此の病氣にかゝれる男子を發見せば直ちに之れを隔離し、六百六號の注射なり其他の科學的方法で、之れを治療して了ふまで自由を與へぬことにせねば、ホントに梅毒、淋病を撲滅して了ふことが出來ない。

同時に梅毒、淋病等に關する賣藥を取締らねばならない。梅毒にかゝつたものゝ中に、醫者に行くのを恥かしがりて、効能のない賣藥で治療せんと苦心し、其の間に手おくれとなり、又其の間に他へ病氣をドレ程傳染せしむるか知れない。されば賣藥の取締を嚴にすると共に効力ある六百六號の注射を普及する爲めに、之れが無料配布の方法などを講ぜねばならぬない。甚しきは自己の病毒を少女に傳染せしむれば癒るとの迷信から少女を犧牲にするものがある。斯かる迷信は一日も早く打破して彼等を科學的治療の信者とせねばならない。

男子をも檢黴せよ

コウ云ふ議論に對しては、歐米の社會でも反對論のある様に、日本の社會でも大に反對はあらう。されど

も國家は自衞上より云ふも、檢黴さるべき性質の婦人に接近する男子、若しくば斯かる性質の婦人の住居せる附近を往來する男子を檢黴せねばならぬのである。理想的に云へば、『結婚まで、性交嚴禁の習慣』を、日本の社會に拵へねばならぬのであるが、ソコへ來るの第一歩としては、先づ個人を、若し萬一梅毒に罹らば、直ぐ樣醫者へ駈けつけよと敎育し、次には社會を敎育して、其の輿論をして、男子の檢黴に反對せしめぬに至らしめねばならぬのである。

男子の檢黴と云ふことは、少し突飛な樣にも聞えるが、既に其の論は歐米の醫學社會で日に〳〵勢力を得つゝあることなれば、早晩必らず行はるゝに至ることであらう。

此の歐洲大動亂の終結後、大國と大國との競爭の、愈々激しくなるべきは火を睹るよりも明かで、從て各國ともに國民の健康に一層注意するに至ることであらう。其の時に一層問題になるものは花柳病であらう花柳病の取締を申譯ばかりにする丈けにして置いて、壯丁の强健を望むと云ふことは、木によりて魚を求むるが如きである。

國民の安寧幸福の上から云つても、富國强兵の上から云つても、酒、梅毒、結核を驅逐し去ることは、今日の最大急務である、今後は之れに成功し得た國民程より大いに榮えることであらう。

此の論W.Nウキリス氏の"The Crime of the Silence about the Hidden plague" に負ふ所多し、此の論に共鳴さるゝ諸君に、此の書の一讀をおすゝめする。

▲一方に能率增進、健康增進、貯金、和田守記憶法流行しつゝあるかと思へば、他方に自殺、他殺心中の流行あり。

▲大米淩雲の出現は、人種改善の何によりても急務なるを談るものなり。人種改善學の敎へに從ひて、此の如き中間人間の生るゝを防がずんば、世に大米淩雲の種はつきまじ。

▲蟇仙人仙術を見するに當り、誰か出でゝ仙人の手に熱湯をかくるものなきかと云へば、宮崎探言者躍り出で、天勝孃奇術を演ずるに當り、看客中より舞臺に出で、檢する人を求むれば、青柳有美先生罷り出ず。好個のコントラストにあらずや。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

戰爭と私生兒

戰爭と賣淫と私生兒と而して花柳病とは、古來附きものであると云ふことになつて居る。先づ我國の歷史を見るに、古くでは楠木正成が陣中に娼婦を携ふるものあるを見て、之れを斬つたとか、朝鮮征伐の時、鹿兒島の壯丁多くは出征其の留守宅へ手紙が來ても讀めぬので、他の男子に讀んで貰ひ、お禮に酒を出せし所から風俗大に紊亂したとか云ふ樣な事實がある。近くは日淸戰爭の時、廣島、馬關、門司、福岡、長崎、神戶、大阪、橫濱等に多くの私生兒が生れ日露戰爭の時も同地方に澤山の私生兒の生れたことは、人々の耳目に尙ほ新なる事實である。

今回の歐洲大亂で、英國なぞにも私生兒を姙娠せる婦人多く、近頃ソレが同國の大問題になつて居る。ドンな惡い事でも、大勢がすれば左程惡くない樣に見え、又之れを辨護するものも出て來るもので、英國に於ても此等私生兒姙娠の婦人を辯護して、新聞紙上で堂々と

大英國亡滅の時期到來せり、英國民は高尙なる宗敎の意味を悉く偏解し、頑迷なる固執病に魅せらるゝが爲め國家の元氣たる出產の勢力を破壞し、虛榮虛飾の空氣に眩惑して今日の悲境に沈淪せり――須らく我英國は速かに法律を制定し、成年の婦人にして相當の財產を有する者は、必ず一兒を分娩するの公義務を有する事とすべし

と論じた記者がある、其の記者は法廷へ引張り出されて居ると云ふが、之れよりも甚しきは

此の際のことなれば、私生兒姙娠も亦愛國的行爲の一なり

と、聖書の文句なんか、澤山に引用して論じた小册子を拵へて、廣く若かき婦人の間に配布し罰金を千圓とられたものがあることだ。議論と云ふものは、場合、場合でドゥ變じて行くか知れない、恐ろしいものである。

『天理敎祖觀』を讀む

著者奧谷文智氏より、左の手書に添へて一本を贈られた。

『御苦心御經營の「新眞婦人」每號拜見、「世界の母性化」の爲めに專心御盡力の段誠に感佩の至りに堪へず候小生は天理敎の信者にて天理敎祖中山美伎子女史の母性的(救濟的犧牲的)大人格に歸依する一人に御座候而して人類の理想世界は貴誌の主張せらるゝが如く世界の母性化を以てのみ實現し得らるべきものと確信仕候彼の平和運動の如きも要するに世界を母性化せんとする努力と見るを得べく、宗敎の本尊に於ても聖母マリヤを拜し、觀音に禮するなど等しく母性的のものを撰べるは必然の要求か將又偶然の一致かは知らざれども偶ま此等の事柄を以て東西古今人心の奧底には同じ潮流の相貫通せるを見るに難からず候此の點より論じて十九世紀に發現したる一新宗敎の敎祖に中山美伎子刀自を發見したるのみならず殆んど時を同じくしてセオソフヒーの開祖にブラハッキー女史あり、クリスチャンサイエンスの主唱者にテッデー女史あり、東西相呼應して靈界に女性の崛起したるは眞に宇宙神秘の一大啓示にして女性問題解決の前途にホープフルなる光明を揭げられたるものと存じ候就ては近日發行の小著「天理敎祖觀」一册別封にて御目にかけ申候間御一讀御高評を玉ふるを得ば小生の喜悅誠に之に過ぎ申さず候』

著者は幼少の時からの天理敎信者で、多年同敎の機關誌『道の友』の編輯に就事せる人で、而かも特に敎祖傳の研究に熱心な人である。今日天理敎祖の事蹟に最も精通せるの人である。されば此の偉大なる女性を知らんとするものは、是非とも此の書を一讀せねばならぬ。(定價五十錢、本鄕區元町二の廿五、日月社)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

頸珠

モーパッサン作
覓甲太郎飜譯

一

彼女は『運命』の誤謬りで、時あつて中流の家庭へ、生れて來ることがある。例の男の魂を蕩ろかすやうに、縹致の好い少町娘の一人であつたが、お金持の方や、名高い方に、自分の名前を知られたり、親しく交際を希まれたり、戀されたり、結婚を申込まれたりするための必要條件である嫁產、親戚から讓受ける遺產、自分の收入なぞいふ物が皆目莫かつたので、一思ひに文部省へ勤めてゐるある齡若な書記と、一緒になることを承諾して仕舞つた。

家計上、贅澤もならず、自然身紛裝なども淡粧としてゐたが、それが彼女には、女としての自分の本當の地位よりもずつと以下に蹴貶されてゐるやうに思はれて、言つて見やうもない程口惜しくて堪まらなかつた。もとより女にとつては、世間の地位や階級なんかはどうでも可いので、婀娜つぽいとか、臭娜りしてゐるとか、淸艶だとかいふやうなことが氏や身分と同じほどに滅法有り難いものとなつてゐるのだから、天のなせる花車とか、生れながらの粹な心意氣とか、他人を外らさぬ如才なさとか言つたやうなものが全く、女の社會を左右して、どんな高貴な方の御令孃も取るに足らん素町人の娘つ子も、ごつちや交せにして了ふものらしい。

彼女は自分はどんな快美でも、どんな奢侈でも、享樂するだけの價値があるやうに、生れ付いてゐるのだに……と意うてはいつでも絕間なしに、悶々してゐた。その住居の痒攂しさや、壁の不體裁なことや、古耄た椅子や

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

醜惡い窓掛などはみな彼女の心を苛んで、堪へがたく喰込んで來るのを感じた。で、彼女と同じほどの中流の女どもには、一向に氣付もしないやうないろんな些細なことがらが彼女には焦燥々々して、じれつたくてならなかつた、小柄なブリトン生れの百姓女の女中を見るに就けても、その希望や空想がどん底から打砕かれてしまふ憾めしさに心の中が攪亂された。

彼女は青銅の高燭臺が幾臺も奢りがましく灯をゆらぎ煌やかせてゐる東洋製の壁布がどつしりと掛けてある閑靜な控部屋のことや、透風さへも洩り込まぬ室内の重いやうな暖氣に、うつらうつらと、大きな安樂椅子に靠れて居睡をしてゐる、短袴を穿いた丈の高い二人の家僕のことなどを思うてゐた、また、古代絹布で裝飾した長方形の客間のことや、價格も察れない程の珍品を載せてある、精巧な家什のことや、あらゆる貴婦人連の羨望の焼點であり、かつ、あらゆる貴婦人連がその注意を惹かう惹かうとして、大騷をしてゐるやうな、名聲あり、人望ある紳士を『親友』として、朝の五時頃の睦語のためにしつらへた、媚びるが如き馨の渦卷き返る閨房のことなどを意ひ浮べてゐた。

三日も取代へないでその儘になつてゐる卓子掛が懸けてある圓卓へ良人と差向で食事に就いたとき良人はスープ皿の蓋を採り擧げ、大恐悦の體で『ヤアこれは甘さうな昆爐だ！俺は一等これが好きサ。』と言つたが、彼女はそんなことには耳を借さうともしないで、自分勝手に美味さうな正餐のことや、すべつこさうに光る銀製の器具のことや、壁畫のやうな、古代の人物や、仙客の群り遊ぶ森林のひまを、音も無く翔り往く珍鳥なんかが浮彫の如く描き出してある壁掛のことや、鱒の桃色の腕肉か、鶉の胸肉でも啄きながら、謎のやうな微笑を含くんで、美男が耳近く囁く媚めかしい嬌語を、夢心地で聽惚れてゐるといつたやうな麗はしい空想に耽り憧憬れてゐた。

彼女は衣裳も寶石も何んにも持つてはゐなかつたが、その僻彼女にとつて世の中にそれほど欲しい物は又と無

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かつた。只そのため許りに、此の世へ生れて來たのだといふやうな氣がしてならなかつた。それで、若しこの肉體を高價な衣裳や寶玉で粧り立てたことならば、乾度人々からも羨望やまれたり想を懸けられたりするやうな艶な好い女になれるに違ひないと怨らめしくてならなかつた。

彼女にひとりのお友達があつた。それは以前修道院に居た頃の學校仲間で、ひどくお金持の娘さんだつたが、そこを訪づねると、自分の家へ戻つてから、羨しくて、心苦しくてならないので、既う近頃は訪ねるのに餘り氣乘がしなくなつてゐた。

と、ある日の黄昏どき、良人は大形の封筒を手にして、得意げに戻つて來て、言つた、『サア、こりやお前に來たんだヨ』。彼女は手早く封を切つて、摺物を取出いて開けると、次のやうな文句が印刷してあつた。

『文部大臣ジョージー・ランポノー夫婦はルアーゼル御夫婦を正月十八日月曜日の夕刻より、大臣官舍に御招待申上候。』

二

良人は妻がどんなにか歡ぶことだらうと期待してゐたのに、却へつて、蔑如やうに招待狀を卓の上へぱつたり投げ出して、囁いた。

『これを妾にどうしろと被仰るんですか？』

『何故、勿論お前が悅ぶだらうと意つたからサ。一向お前は屋外へも出ないしするから、これが恰度好い機會ぢやないか、俺はその一枚の招待狀を手に入れるにや、怖しい面倒な目にあつたんだヨ。』左に右く渠等はみんな出席したがつてゐるんだが、たいした撰拔で。書記風情は殆んどお招きに與かれないといふ始末なんだ、何しろ當日は官吏社會の上の方だけは全部會合しやうといふ勢込らしいネ。』

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

彼女は怒氣を帶んだ眸で、良人を睨め付けるやうにながめながら、急性に、嵩にかゝつて、言立てた。
『では、妾に何樣な扮裝で往けと被仰るんですか？』
良人もそこまではまだ慮へ及んでゐなかつたので、吃り吃り答へた。
『フム。あの、その、芝居に往く時、お前が著る衣裳サ。あれは俺には、莫迦に佳く見えるんだがナ。』
良人は妻が肅々泣き出したので、落膽して喋るのを廢した。見れば二滴の大粒な透きとうた、涙が彼女の瑞々した深みのある大きな碧い目から鮮麗に充血した唇の兩隅へ向つて垂れさがつて來た。『一體、どうしたといふノ？』
良人は矢張り吃り乍らも、もの優し、語調で言葉を掛けた。
彼女はひどく骨折つて、掻き挘られるやうな悲しさを無理檜に抑へ付け、涙に濡れた兩方の頰をハンケチで拭ひながら言葉靜かに、答へた。
『何でもないツ。只ネ。妾には着物なんか無いんですから、こんな舞踏會へは出れないといふだけのことなんですワ。だからこんなカードなんか妾等よりもつとくめんの宜いあなたの同僚のお方にでも、進上げておしまひなさいナ。』
良人は力を落して、
『フム、再うさナ、マチールド。何か斯う極く瀟洒したもので、舞踏會以外の場合にも間に合ふやうな、恰好な衣裳は幾何程するものかナ？』
『彼女はお腹のなかで、あれこれと計算をして試たり、またどれ程の金額なら、儉約な書記の良人は無下に拒みもせず、また愕きもしないで、默つて出して呉れるかしらと意つて、霎時慮へ込んでゐたが、とう〳〵、躊躇し乍ら言つた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『確的したことは解らないんですけども、四百法もあつたら、どうにか成りさうですワ。』

良人は心もち顔色を變へた。といふのは日曜毎に、雲雀射ちに往く四五人の友だちと一緒に、ナンテールが原で、此歳の夏は些し遊獵でもして、慰さまふかと思つて、恰度獵銃を買求めるのに、四百法ほどの金子を蓄へてゐたところだつたからで。

併し良人は言つた。

『宜敷しい。それぢや、お前に四百法呈げやう。マアそれでひとつ立派な衣裳でも作るとするサ。』

三

舞踏會の日は近づいた。

ルアーゼルの妻君は氣が欝して、不安に附纏はれて、落付がないやうな情勢であつたが、まへに注文してあつた夜會の衣裳は既う出來てきてゐた、ある晩のこと、良人が彼女に言つた。

『マア、この三日ほどといふものは餘つ程お前の素振は妙だョ。どうかしたのぢやないかネ？』

『だつて、身に着るものといつたら、碌に寶石一個無いんですモノ。妾眞個にもう、厭になつちまうワ。妾宛然貧乏神のやうに見えやしなくテ、寧そのこと廢にした方が優しらしいワ。』

『生花を簪したら宜いぢやないか。當世はその方がよつぽど流行だぜ。十フランも驕めば素的な薔薇花が二三本も買へるョ。』

彼女はそんなことでは納得しなかつた。

『いゝえ、いけません、お金持の婦人連の中へ立ち交つて貧乏臭く吝嗇れて見えるほど、氣が引けて。肩身の狹いものはありやしませんョ。全く。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

良人はそれを強く抑へるやうに、

『お前はまあ何といふ莫迦だ！お前のお友達のフォーレチーヤーさんの處へ出かけて往つて、寶石を借りるやうに賴んだら可いぢやないか、お前とはあんなに近しい仲なんだモノ、それぐらゐの事は直ぐにでも爲て呉れるだらうヨ。』

彼女は喜の叫聲をあげた。

全くだワ。妾些しもそこへは氣が付かなかつたのヨ。』

翌日彼女は、そのお友達を訪ねて、他人には言へない自分の現在の苦しさを打開けて談した。

フォレスチーヤー夫人は玻璃戸の嵌めてある衣裳部屋へ這入つて行つて、大きな寶石函を取り出し、それを持つて出て來て、蓋を開け、ルアーゼル夫人に言うた。

『サア、何れでもお氣に召したのを。』

彼女は最初手飾を、次に眞珠の頸飾を、次にヴニス製の十字架の飾を、次に細工の美事な黃金や寶石などを順順に視て行つた。そして、姿見鏡の前に彳んで、裝飾物を自分の躰軀に着けて、看ては、もうこの外にお持合はムいません？』と不斷に訊ねながら、いつまでも愚圖愚圖と、戻しかねてゐた。

『エヽ、所有つてはゐますがネ、マア、貴方御自身で御覽ん遊ばせ、妾にはどんなのが、貴方のお氣に召すのやら解らないんですモノ。』

すると思ひがけなく、彼女は黑い繻子の小匣の中に、煌々と光り輝いてゐる素張敷い金剛石の頸飾に出食はして、矢も楯もたまらぬ欲しさに、彼女の心臟は激しい動悸がだく／＼と皷ち始め、諸手はわな／＼と戰へ出した彼女はそれを高い襟の上から、頸へ卷き付けて、鏡の中のおのが姿に見蕩れてゐた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

頓て、彼女は苦悶さで胸腔が固く緘込られたやうになつて、狐疑し乍ら訊ねた。
『貴方、希うか、これ、借して下さいませんか？これをです？』
『サア〳〵、宜う厶いますとも、お持ちなさいましナ。』
彼女は身を投げ掛けて、お友達の頸に抱付き誠心を罩めて接吻したあとで、寶石を受取つて駈るやうにそこを去つた。

四

舞踏會の日は來た。

ルアーゼルの妻君は美事、大成功を贏ち獲た、彼女は集つて來た大勢の婦人の内で飛抜けて秀麗しく、垢抜けがして、嫣然やかで、如何にも心の眞底から嬉しさが湧みあげて來るやうに見えた、男といふ男は彼女を觀め、彼女の苗字を訊ひ、彼女に紹介して貰ひたがつてゐた。内閣の屬官たちは皆彼女と組んでウォルツを踊りたがつてゐた、その夜主人役であつた大臣閣下のお目にさへも留まつた。

彼女は踊つた、夢中になつて踊り抜いた、昂奮しきつて、遊興に酩酊して仕舞つて、世の中の一際萬事を忘れ果て、美貌に於て捷利を制した矜らしさと、その成功の光輝と、幸福——あらゆる尊敬、あらゆる讃美、あらゆる希望の目醒、そして女の心には無上に快美いものである、勝利の自覺と言つたやうなものゝ寄り集まつた——幸福の八重雲の裡へやんわりと包み込まれたやうな氣分になつて、彼女は躍りに踊つた。

彼女は朝方四時ごろ、其處を出た、良人は他の三人の男達——その人々の妻君連も愉快な一夜を過した——と一緒に、人の來ない小さな控の間で、眞夜中頃から眠り續けてゐた。

良人は妻の肩先へ、自分が擕つて來てゐた並製のお粗末な上被を羽織つてやつたが、派手やかな舞踏服との對

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

照から、その瘁攝しさが一入目立つて見えた、敏感な彼女は直ぐにそれと氣付いたので、高價な裘を奢がましく纏うてゐる、貴婦人どもに看付からないさきにと、早速逃支度にかゝつた。

ルアーゼルは美しい妻を控へて、言つた。

『霎時、お持ち。お前歩ゐちや、風邪罹くだらう。俺が往つて、辻馬車を喚んで來やう。』

この良人の言葉には耳も借さないで、彼女は歩速に階段を降りて往つた、兩人は衢路へ出たが既うあたりに馬車はゐなかつた。遙か向うの方を怖うさゝうに通つて行く馬車を看付けたとき、二人はその御者に喚び掛けて試たりなどした。

二人は落膽して、寒冷に躰軀を慄はしながらセーヌ河の方へ歩いて往つた。漸う〳〵埠頭の處で、舊式な一臺の夜馬車に有り付いたが、これはまた晝中は流石にその不體裁を、明昧へ曝すことを羞ぢて、夕暮過でなくては巴里界隈へは決してその醜體を露さないといつたやうな種類の見苦しい馬車であつた。

そのがた〳〵馬車で、二人は兎も角も自分の家の戸口へ着いて、氣抜けしたやうに内へ、這入つて往つた、日頃の冀望も美事に叶ひ、彼女には最早や何一つ意ひ置くことも莫かつたが、良人の方は十時にはまた省へ顔を出さねばならないことなどを考へてゐた。

彼女は盛裝を凝らした、自分の匂ひ溢れるやうな艶つぽい嬌態を、今一度靜かに覩がめて樂しまふと、姿見鏡の前へ應揚に歩み寄つて、その圓らかな兩肩を包んでゐる上被をそつと去つた、その一刹那、彼女は出拔に疳走つた絶叫を發した。彼女の頸に捲かれてあつたはずの尊い頸飾が何時の間にか無くなつてゐたのである。

その時、既う半分衣服を脱ぎかけてゐた良人は愕ひて訊うた。

『どうしたといふんだイ?』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

彼女は狂氣の如く男の方へ振向いて、
『あーあーあー妾フォレスチーヤー夫人の頸飾を紛失しちやつたノ』
男は頭の中がぐら〳〵となつて、衝立ち、上つた。
『何！——如何？——まさか！』
二人慌たゞしく彼女の着物の折目、外套の折目、衣兜の底は勿論のこと、周圍隈なく捜ねて見たが、大切な頸飾は更に看付からなかつた。
『舞踏會場を出て來る時、お前がそれを着けてゐたのは確かだネ？』
『エ、爾うなノ、玄關の處で妾、手で觸つて見たワ。』
『だけど、お前が街路で紛失したものとすれば、俺達はその落ちた音を聞きさうなものぢやないか、爾うすると屹度あの馬車の中だア。』
『ア。ひよつとしたらばネ。貴郎、馬車の番號を見て置いた？』
『イヤ俺は知るもんかお前は？』
『いゝ——え。』
いゝずきんと吐胸を衝いて、兩人は貌を見合つたが、とう〳〵ルアーゼルは上服を着た。
『俺等が通つて來た路筋を、ずゝ——つと徒歩つて行つて見やう。どんなことで看付らないとも限らんからネ。』
と言つて、出かけて往つた。あとには、彼女は氣折がして、口も利けず、寐床へ行く力も莫く、呆然と何を考へるでも無く、がらんとして火の氣のない、寒い部屋で、舞踏服を着けたまゝ、椅子に靠れ掛つて、良人の歸りをぼつねんと待ち倦んでゐた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

良人は七時頃、空手で歸つて來た。

それから彼は懸賞で探索するために、警察本部へも、新聞社へも、辻馬車會社へも出かけて往つた——實際もしやと思ふやうな處へは悉く出かけて往つた。

彼女は身に落ちかゝるこの怕ろしい大難厄を、前に控へて、氣も狂るほしい恐怖の中に、日ねもす良人を待ち明してゐた。

だいぶ夜更けてから、良人は悄れ返つて、蒼白い貌をして浮浪離と這入つて來た。勿論手には何にも持つてゐなかつた。

『借用しました頸飾の留の處が毀れましたから、暫時直しに遣つてあります』とでも、例のお友だちの方へは手紙で言つて遣るんだナ。それより外に仕様が無いサ。さうすりや、些の間は息が突けるといふもんだ。』

彼女は良人の口授のまに〳〵に書簡を認めた。

五

不幸なその週が盡きる頃、萬一にもと頼みにしてゐた微かな希望も悉皆消え失せて了つた。

思ひもがけず。地から湧いたる災難で、酷く氣を揉んだ爲か、滅切り老込んだ。ルアーゼルは彼女に向ひ、兎に角、俺たちはあの裝飾品を辨償する方法を勘考しなくちやならないと明瞭言ひ放つた。

仕合と、頸飾が這入つてゐた小匣の內側に、寶玉商店の苗字が記入してあつたので、翌日、二人はその空匣を持つて、その飾り屋へ往つて試た。

舗の帳簿をあちこちと調べ返して見たあとで、亭主は彼女に言つた。

奥様——その頸飾をお願ひ申しましたのは當店の方ぢやムいませんので、ハイ。只函だけお持になつたに相違ム

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いません。

それから、二人はかたなめしに寶石商を訪ね歩いて、朧ろげな心覺を參考に、借受た、頸飾に肖た品物を索ね廻つて見たが胸の中は懊惱と苦悶とで火事場のやうに渦巻いてゐた。

宮城の附近のある店で、恰度彼等が捜ねてゐるやうなお誂向きの、一鎖の金剛石にぶつかつた。そして四萬法といふのを、三萬六千法までに減價けて貰つた。

で、こゝ三日ほどの間、それを他手に渡さないで、存つて置いて呉れるやうに亭主に賴み、若しかして二月中頃迄に、彼等が他に氣に入つた寶石でも見付けるやうなことがあつた場合には、寶玉商の方は三萬四千法で、舊のを彼等から買ひ戻すといふ契約を取り結んだ。

ルアーゼルは財產といつては亡父から遺產として讓り受けた壹萬八千法しか所有してゐなかつたので、不足の分は借受けるか、如何かして拵へねばならなかつた。

彼はAから壹千法、Bから五百法、こゝから五ルイス、かしこから三ルイスといふ鹽梅に方々から借り蒐めて矢鱈に借用證を書き散らし、高利貸や、金貸と名の附くほどの渠等には、悉く渡りを付けて、零落に陷る程の負債を脊負込んだ。

彼はその希望豐かな後半生をさへ全然臺無しにして了ひ、責任なんどはそつち退けで、無鐵砲な署名をどんどんやつた。しかし、新らしい頸飾を受とりに行つて、寶石屋の勘定臺の上へ、どつしり三萬六千法を置いたときには、追がに、今にも我身の上に、襲ひ掛らうとしてゐる怕ろしい苦悶と、闇い災禍と、遁れられない肉體の疼痛と、心神の懊惱とを豫想して、慄然と戰慄するやうな物凄い恐怖に脅かされた。

爾んなにまでして、漸く手に入れた頸飾を、彼女はフォレスチーヤー夫人へ戻しに往くと、こちらの苦心も知

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

らないで如何にも冷淡く、
『妾がどんなことで、要るかも計れなかつたんですモノ、もう些し早う戻して下さりさうなものですワ』
彼女は夫人をひどく怯ぢ怕れてゐたので、事件の眞相を披瀝けて了ふだけの勇氣はなかつた、若し替玉したことでも感付かれやうものなら、それこそ夫人は奈んと自分のことを疑念ふかしら、奈んと云ふかしら、ルアーゼルの奥様はあれは泥棒だと意つたかも計れないワ。
彼女は今となつて初めて、貧の惨さを沁々味ふことになつたが、此様なことには、かいなでの素人である彼女は人一倍の苦痛を感じた、その上、若やかな躰軀に匿くれ宿つてゐた『力』を、突然奮ひ起して、身自からその怕ろしい負擔の幾分かを引き受けて立つたのである、假に思つて見てさへ、身の毛も彌竪つ鉅額な負債を返濟しなくてはならない、彼女はそれを返濟しやうと決心した。
彼等夫婦はいままでの女中を解雇て了ひ、棲み馴れた住居を見捨て、他人の屋根下の半二階を借受けることになつた。
彼女は家事の存外に骨折れることや下婢の立働の厭はしさなどを、つく〴〵と悟つて來るやうになつた、綺麗な薔薇色をした爪を使つて、油に穢れた鍋釜や、皿小鉢などを洗つたり、汚い布片や、シャツや、皿拭布なんかを洗濯して、綱に乾したり。毎朝々々、昨日遣つた汚水を、屋根裏から降りて往つて、街路へ撒き、また今日の用水を、一階段上り切る毎に、息を容れる爲めに憩ひながら、屋根裏の借部屋まで運んで昇つたりなどする自分の悼々しさに、不圖涙が差含まれることも度々あつた、また、下等社會の女が着るやうな見る影もない衣服を纏うて、腕に籃を提げ、安物を買ひに果物屋、乾物屋、牛肉屋などへ出かけて、輕蔑され乍らも、一錢二錢といふ少許ばかりの目腐金を蓄め蓄めして行つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

月末には、一時凌ぎに、他から新規に借用して來た金子で前の負債の埋合を付けてゐた。

彼女の良人はといふと、夕刻には商店の勘定書の淨書をし、晩には遲く更け渡るまで一頁五錢の寫し物をよくやつてゐた。

そしてこんな生活が十年續いた。

十年目の終りには、漸つと虎の腮を免れ、高利貸の利子も、複利で積る借錢も、みんな合せて悉皆根こそげに美事返却して仕舞つた。

彼女も今は悉皆老い込んで、純然でごた／＼長屋のお神さんに化り切つて仕舞つた——氣丈な、ぎごちない、あらくれた。

亂れ放題の毛髮には手も入れず、着崩して苦茶々々になつた皺だらけの裾などには無頓着で、赧らんだ手をして、箒で水を撒き散らし、床を洗ひ廻りながら、聲高にいけぞんざいな口の利き振りで話し合ふまでに變果ててゐた。それでも良人が役所へ出勤して閒寂すると、時々落着いた氣懈いやうな氣分になつて、窓側へ腰懸け、自分が數多集まれる貴婦人の中で誰よりも秀麗しく、誰よりも欵待された、あの十年前の綺羅びやかな舞踏會の一夜のことが見はてぬ夢かなんどのやうにまざ／＼と目先に游いで、いつまでも絡まつていて消えなかつた。

萬一假りに彼女があの時あの頸飾を紛失しなかつたとしたら、果してどんな風になつたらうか？解るものか。解るものか、どんなにか不思議な、現在のそれとは全然で違つた生活を享樂したことであらう！

小さなたつた一個の品物が、保存されるのと、否との洵に微細な差異がかくまでも無殘に我等の生活を左右するものであるとは！

六

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ある日曜のこと、彼女はこの一週間の勞働に底疲れの出た心神の保養にとションゼー・リーゼー（譯者曰く、巴里市中にありて、並木路の兩側が遊覽地となつてゐる處）の方へ逍遙やつて來ると、少年の手を曳いて往くひとりの婦人が目に留まつた、婦人は昔の面影をその儘のまだ初々しく、嫻やかな愛嬌のあるフォレスチーヤー夫人であつた。

彼女の心が動かない譯には行かぬ。彼女は婦人に何か言はふと意つてゐるのか。左樣!その通り。そして一際の借財を物の美事に返濟して退けた今日のことだから、何事も包み隱くさず皆打明て話して仕舞はふとしてゐるのだ、今更何の躊躇が要るものか。

彼女は婦人へ追縋つて往つた。

『今日は、ジャンさん。』

夫人は尠しも見覺の莫い尋常のお神さんから、馴々しく出拔に話懸けられたので、些なからず喫驚して、どぎまぎしながら、

『だけど――お前さん!――妾はお前さんを知りません――何か人違ひでしやう。』

『いーえ。妾はルアーゼルの家内で厶いますョ。』

夫人は愕然として、己にもあらず聲高に叫んだ。

『マア、お氣の毒なマチルドさん!何といふお激變りやうですか!』

『ハイ。妾は奥樣に最後にお目に謁つてからこちらといふものは、血を吐くやうな辛い月日を渡つて來ました。憐れな難澁な歲月を送り迎へて來ました――しかもそれは皆んな、貴女の爲で厶いました。

『妾の爲ですつて!まあ――如何してですか?』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

クスリはホシ

効能	藥名	定價
皮膚諸症	ホシチオール	十錢 三十錢 五十錢 一圓
萬病膏	ホシプラスター	一錢 三錢 五錢 十錢 廿錢
子宮挿剤	ホシ婦人坐藥	二十錢 五十錢 一圓
下痢妙剤	ホシ下痢止	十錢 二十錢
便秘良剤	ホシ下剤	五錢 十錢
胃腸新剤	ホシ胃腸藥	十錢 廿錢 五十錢 一圓
婦人諸症	ホシ血の道藥	十錢 卅五錢 六十錢
虫下妙剤	ホシ虫下シ	五錢
新剤	ホシ風藥	五錢 十錢 二十錢
新剤	ホシ眼藥	十錢
痳病新剤	ホシゴノール	三十錢 卅五錢 五十五錢 一圓
梅毒新剤	ホシサヨリン	二十錢 卅五錢 五十五錢 一圓
清涼剤	スター	五錢 十錢 廿五錢 五十錢
痔特効剤	ホシ痔剤	十錢 廿錢 三十五錢
腦神經藥	ホシネルベン	廿五錢 卅五錢 六十五錢
肺病新剤	ホシアンチツベルケン	一圓 二圓 三圓五十錢
新剤	ホシリウマチス藥	五十錢 一圓
新剤	ホシ歯液	十錢
痰咳妙藥	ホシ祛痰藥	五錢 十錢 廿錢
皮膚外用	ホシセプチン	十錢 廿錢

其他製剤數十種全國到る處の特約店にあり

資本金百萬圓

星製藥株式會社

東京京橋區南傳馬町（振替東京二〇五二二番）

花柳病豫防液

ゼニール

專賣特許

旅行家は必ず本劑の携帯を忘れ給ふな

「ゼニール」は花柳病の感染を豫防する未曾有の特効を有し之を裝置する安全注入器は携帯至便小形堅牢なる特許品にして秘密使用に恰適す、花柳病の恐ろべき害毒を知る諸士の忘る可らざるは此「ゼニール」本店は勿論何處の取次店も大に歡迎す決してきまりわるがり又は僅の金をおしみ給ふな、特に夫に病毒ある妻君は是非此藥を用ひられよ、説明書あり申込あれ

御婦人は藥液ばかりでも間に合ひます

定價			
特製（器械 藥液）	一組	二圓
甲種（器械 藥液）	一組	壹圓五十錢
乙種（器械 藥液）	一組	七拾五錢
藥液ゼニールのみ	一瓶	廿五錢
送料		各八錢

發賣元

精錡水本舗 岸田吟香

東京銀座貳丁目

振替東京四七八七番

電 京六一五番

登録商標

岸田目藥 精錡水

彼ノ有名ナル米國大博士ヘボン先生直傳ニ係ル眼病一切ノ靈藥ニシテ現代我ガ國ニ於ケル目藥中ノ「オーソリティー」ナリ

新しき家庭には常に新鮮なる食物を要す風味會は斬新なる方法を以て常に新しき食物を御家庭に供給致候

顧問 松原新之助君
三宅秀君

風味會

麻布區材木町七番地
電話芝三一四九番

委細御電話又ははがきにて御問合を乞ふ

家傳靈藥

ぢの藥

自宅ニテ安全ニ治ル

●イボ痔●痔座●裂痔●痔出血●脱肛痔●痔瘻●不灼不切現狀の儘で治療奏効頗る顯著の家傳靈妙藥あり「ハガキ」にて申込有ば病原理由自宅自療法の說明書呈す

●東京市京橋際疊町壹番地

● 製藥本舗 小松盛林堂

電話京橋二九七

產婆看護婦派出
生徒養成

東京市芝區三田四國町二番地五號

東京衛生團 產婆看護婦部

電話芝八百六十四番

部長 產婆看護婦 山下まつ子

府下荏原郡大崎町大字桐ヶ谷三百五十九番地

產婆部 大崎支局

最も人にきらはれる

わきが

の病に罹られたる御方又永年慢性わきがにて色々の治療を施されても治らずに苦まる丶御方の爲めに不思議によくきく治療法を御知らせ致します御望みの御方は御遠慮なく只返信料三錢切手御送り下されば御知らせ致します

東京神田區錦町三ノ三 中村喜三郎

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

男女應用 成美液

天性色黒き人。日にやけて黒き人。海水又溫泉にて黒く成つた人。吹き出物の跡の黒き人。本劑を用ひれば色を白くするは勿論。皮質を艶麗ならしめ。何時も綺麗に美容を保つは本劑の特色にて。皮膚病學に於て既に定論ある確實なる美容劑なり。殊に、付ければテキメン色白くなり七日付ければ見違へる程白くなる。

定價小瓶十二錢◎中瓶貳拾五錢◎大瓶五拾錢◎特製濃液一瓶金壹圓也送價二錢大四錢特八錢(切手一割增)

わきが藥

本症は頗る惡臭を放ち他人に接近するをきらはれ有爲の美男子も**交際**を缺き又妙齡美婦女も**良緣**を失ふが如き**不幸**に陷ゐる人澤山あり之れを救はんが爲數年苦心して得たる新發見藥を世に紹介す多少に係はらず本症のある人は早く用ひて幸福の人となられよ

小包卅錢中包五十錢大包壹圓送二錢切手一割增

子宮サック

ゴム製にして婦人衞生上必要の良器之を用ゆれば淋毒梅毒の傳染を防ぎ月經時には經水の漏洩を防ぎ立居を便ならしむ委細は本品に添ある能書◎病院御用指サック二個拾錢送二錢
注意御注文は成るべく振替にて東京四六七壹番寶順堂宛御拂込奉願候

甲種一個一圓◎乙種七十五錢丙六十錢送二錢

◎月やくの

止った時程婦人の一大事はありません若し妊娠であれば猶身體に異狀が起る爲食物にまで變りがあります又不順でも閉止でも藥療を怠れば子宮病其他種々の病を誘發す故に月經あるべき時期に無くて逆上頭痛其他身體に障り起つた時は一日も早く專門の奇藥流經散を用ひなさい此藥なら胃腸を害す副作用もなく安全に流下し身體**ほんと**に不しぎの樣も健全になる事です藥代は一週分五十錢半月分壹圓特製貳圓送料不要(切手代用一割增)

東京神田區五軒町
振替東京四六七一番 **寶順堂**

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『貴女はあの大臣官邸で催されました舞踏會に、それを粧て出席るやうに、妾に金剛石の首飾を借して下すつたことを記憶していらつしやいますか？』

『エ、、好つく記憶してをりますワ。』

『サウ。妾はその首飾を失ひました。』

『貴方の仰しやるのはどんな意味なんですか？貴方はそれを妾の手へ戻して下すつたぢやありませんか。』

『妾は恰度拜借したのに酷肖なのをお戻ししたのですワ。妾どもは只その一個の裝飾品の代價を支拂ひたい許りに若い樂しい頂點の十星霜といふものを、まるで滅茶々々にして了ひました。鐚錢一分にさへ事缺いだ妾どもにはそれはそれは容易なことでは厶いませんでした。貴方もそれはお解りでせう。然し、とう〳〵それも今では濟し崩して、仕舞ひましたので、妾は何だか嬉しいやうな氣が致しまして、』

その時、夫人は口を挿んだ。

『貴方は妾のを償う爲めに、金剛石の首飾をお買求めになつたと被仰るんですネ。』

『然うなんですワ。その時は、貴方は些しもお氣付きにならなかつたやうでしたワネ。隨分好つく肖てましたからネ。』

『爾う言つて矜誇らしさと無邪氣さとを合せたやうな笑方でニッと笑つた。

夫人は激甚く胸を衝かれて、彼女の兩手を固く握り締め、

『あゝ可憐いさうなマチルドさん。其品はまやかしものでしたノヨ。五百法にも當たらんやうな安物でしたノヨ！』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人と劇

中村春雨

さうですね、婦人殊に一家の主婦としての婦人が子供等をがや〳〵連れて劇場へ押し掛た所で餘り益はなささうですね、歐米諸國の内でも獨逸や米國では別に子供專門の劇場があつて保護者が付いて盛んに出かけるやうです、子供に大人が觀賞する劇を見せた所が何が何だかさつぱり分りませんから矢張り子供には子供の腦力でこなして解る程度な者を見せなくちあ虚ですね。小供には何處迄もミルクのやうに甘い懷かしいものでなくちあ向かないでせう。

又婦人が近代劇を研究傍々見物するのは勿論、教化文化の機關として劇の齎す成績は偉大なものでせう。日本など少數な劇場で時々近代劇をして漸く新傾向の劇の渇を癒やすのは實にその貧弱さ加減はお話にならない程度ですが、米國等では特に婦人の團體で創立してる劇場が非常な勢力で以て、どん〳〵發達して行きつゝあります、其會員として入會してる婦人も一劇場に二三萬はありませう。

兎に角近代劇が普通一般の婦人に了解されるのは未だ容易なこつちあありませんね。二十五歲以上にならなければ、眞に劇その物を自分の所有にし、理解してゆく事は不可能だと云つてる人もありますが、家庭に在る人と否とを問はず、事情の許す限りは見たり聞いたり讀んだりする必要は充分にあります。

從來の所謂芝居なるものを見てきた眼に近代劇の餘りに突飛といつては語弊があるでせうが、普通能力で相像し得なかつた新しい或物に突つ打つて目醒めて行くといふ事は實に賀すべきでせう。婦人が今までの捉はれた家庭から、大きく社會を見て、劇等へだん〳〵

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

接近し、やがて舊き惡習慣を捨て新しい方面を開拓し啓發して一歩づつ、眞の家庭の意義を見出して進む樣になつたならば、茲に於いて初めて婦人と劇との密接關係が横はつてゐる事が明瞭になるのですね。

今までの劇卽ち芝居で云ふと主に白い顏が善で赤い顏が惡の表象のやうに一般になつてゐたのですが、近代劇では白い顏が惡になつたり、赤い顏黑い顏が善になる事は始終あります、芝居では常識の判斷、つまり常識で悟り得る正邪善惡が直ちに舞臺に上つて、踊る役者も見る客も、仕草や科白、筋に絶大な興味を持ち滿足を得てゐたのですが、近代劇になると、夫等の常識と全然離れて何處までも突き詰めて行つた曉の眞理研究し實驗した後の型に、觀客の心裡に一つの印象を殘し、引いては社會を敎導しやうとするにあるのですですから婦人が此方面に興味を持つに際しても、外面のみならず、內面、內生活に深く立ち入つた態度で見なくちあなりません。

社會劇にしろ家庭劇にしろ、いづれも新しい眞相を見せて吳れる近代劇に、すべての感情にデリケートな婦人が相當な用意と鋭敏な咀嚼力とを持つて接するのは、何よりも一番手近な婦人致導法になる事でせう。そして、その婦人が中心となつて一家庭を修め、周圍を善化し新道德の基礎を堅實にしてゆく覺悟で、益々近代劇に步みよる事を奬勵したいものと思つてをります。

俳句

墓石洗へば秋曉の忘れ星　蔦枝
狗肉商靜けさな里の柿青し　同
鍬卸せば先づ起すみゝず今朝の秋　同
破れ蚊帳干せば屋根に飛ぶ蜻蛉　同
流し場に虫鳴くや蚊帳も昨夜まで　同
名染女を待つ間唄ふや夕月夜　同
今朝秋の君が訪客と思はせし　同
貧世帶窶れ十年秋の風　同
今朝秋を貝の白さに冴ゆる村　同
辻びらの飛ぶや宿屋の秋の風　同
碁捜てば謝りを鳴ゝ秋の風　同
今朝秋の落葉樹に雀囀らぬ　同
洞庭湖遊今朝秋を知己の文　同
平凡の葉書だよりや今朝の秋　同

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

避暑地より

玉露女

鎌倉から歸つたかと思ふと花が散つて青葉が繁つていつしか夏になりました、半年の間何の仕事もしない内に亦例に依て子供のお伴して山住みする時が來てしまひました。冬と夏とは私は海に山に三等看護婦位の役目をつとめます。

今年は別所へ參りました。

此處は信州の上田で汽車を降りて二里半を行くのです海拔二千尺溫度は東京より五度は低いと思ひます女神男神の二嶽を後に千曲川の流るゝ所、前に鹽田遠く連り遙に淺間の噴煙を望む溫泉場です。

薄青く流れあふるゝ溫泉を瀨戸張の湯槽に湛へて硫化水素のかをりが淡い其中へ三人の女兒はタオルの寢着脫いで揃つて飛込みます入浴がすむと散歩します。安樂寺へ行つて見ました、古い〳〵禪寺で山により崖に臨み靜かな〳〵所です、蓮池の向ふにお墓の見えるのも淋しく、後ろの山に八角の四重の塔の有るのも嬉しい、庭前の數百種の楓を一株とした百色紅葉を眺め樵谷禪師幼牛禪師の木像を見て歸りました。

夕方は常樂寺へ行きました、お堂の中の地獄極樂の掛物を子供に見せて後ろの池の傍へ出ますとお坊さんがたらひの舟を漕いで來られました此處のお住持樣のお子息は文學士でまだ若い方ですと、話ました、こんな山の奥のお寺に生れて東京の赤門を出た人が有るのかしら、そこへ何處ともなく一人の美女が移り住むで朝な夕な其若い美しいお坊さんと語るとでも云ふと鏡花の小說になるがな、と思ひながら聽いて居ました、意氣な色をした蜻蛉が池の中の蒲に澤山とまつて居ました。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

矗々と木立小暗き山道を歸りながら、不圖都の人が戀しいと思ひました。而して寧ろ此儘此山中に一人籠つて尼生活をして、一年に一度なり二度なり其人の訪づれを待つた方がいつそ幸福であらうか、などゝも思ひました。

何にも知らない幼ない子達は女中と一所に唱ひながら山を降りて行きます。

『空に囀へづる鳥の聲峯より落つる瀧の音』つて可愛いゝ聲も同じ粧ひした三人の姿と共にだんだん遠くなつて行きます、別に何の困難にも出逢はず何の不足もない私達は自から人形の衣物を脱ぐ事は出來ない、脱ぐと風を引くから止むを得ず苦しがつて着て居る、二重生活、人形の生活……とM樣のお手紙を思ひ出して居ると、

「お母樣!!!」遠くの方で呼んで居る「ハーイ」どし／＼走り出して後を追ひました、嗚呼、其お母樣は勉强もせず原稿も書かずたゞ焦々とした日を送る、而して何時迄無事に子達の母として生活して行かれるかしら?

涼しい風は袂を吹いてなでしこ桔梗などが兩側の山のふもとに咲いて居ます、水の音、鶺鴒の聲、たそがれ時のたゞ靜かに暮れて行きます。

溫泉神社と云ふのが有ります緣結びの神樣で北向の觀音樣は厄よけの神樣です其後の護摩堂は天長二年の創立で其御本尊の不動明王は慈覺大師の作なんです。

雨の日などは諸方のお部屋へ遊びに行きます某法學士夫人の一群は觀世流のお謠で賑はつて居ます。今日も奥樣が小鼓をお調べになります學習院女學部出の美しいお方ヤ、オ、の掛聲冴はやかに眞白のお指が緋房の緒を握つて右手にポンポンと美事なお調べ、艶やかなお髮から派手なお浴衣單帶の繪の樣なお姿。

「實にさま／＼の舞姬の聲も澄むなり住の江の松風もうつるなる青海波とはこれやらむ。」

高砂の强吟の一節をあとにしてお池の上の小橋を渡りお離れへ行くと○○さん御夫婦が、お子息のお嫁さんを貰はなければならないとお話して入らつしやる。何事も本人の意志を第一として親は其相談對手の格で選

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

び度いと仰有る、誠によく解つた親御様達だと思ひます。

人生の第一歩をふみ違へて人間として價値を捨てた生涯を送らなければならない私達が今更自覺の儘に走る時は周圍の嘆きが大なる悲劇を起すであらう。「舊い親に新らしい子」の現代の矛盾をあいまいに妥協して過してしまふとしても、せめては自分達の子供の生活を妨げない程度に物の解つた親になり度い。

私達は「新らしい親と新らしい子」の時代を作るやうに心掛けなければならない、間違つた考へのためにつまらない事を嘆くやうな親にはなるまい、と思ひながら聴いて居ました。

「奥さん!!! 冬一生懸命に働いて夏遊んでるものは何ですか考へて御らんなさい。

「左様ですね燒芋屋はどうでせう」

「燒芋屋は夏氷屋になつて矢張り働きますよ」

「氷屋にならない燒芋專門屋にしませう、それとも天然氷製造專賣業でせうか?」

「アハヽヽヽ、そんなもんぢや有りませんよ、考へて御らんなさい」

「ハイ〳〵それぢや又お湯にでも入いつて一つ考へなほしませう」

と○科大學生の××さんのお部屋を通りながらお湯殿へ行きました。

箱根や伊香保の樣に俗つぽくなくて虚榮の風も吹かず何となしに居心地のいゝ所です、ただもう少しお魚が色々有つて近所に大きな瀧でも有つたらそれこそ理想的だと思ひます、矢張り鹽原の奥がなつかしう御坐います。

御機嫌よろしう。　（終）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

乾燥せる生活

女子美術學校　谷紀三郎

左樣世の中は追々荒んで來ますね。之れをも少し溫味のある潤ひの漂ふ樣にするには、矢張り婦人の手を借らなければなりますせんね。婦人が何處までも男子の慰藉者となりて男子を感情の方面に導くといふ事は重大な問題だらうと思ひます。生存競爭の激甚となるに從つて精神的生活の城を脫し、專ら物質的に傾いた生活の結果は社會の乾燥、引いては世人が惡い意味の個人主義を極力維持しやうとするに在りました。が其處に往々新らしい女なる者が出てきて今迄の男子から受けた屈辱を晴らさん爲に對等の權利を得やうとするはまだしも全く男子を征服しやうとあらゆる手段畫策を巡らすのは一寸踏み過まると飛んでもない惡果を來します。從來男子は女子を利用し又女子を踏み臺として自己の勢力を增進しやうなどとは夢にも思つては居りません。充分女子の價値を認め或程度までの尊敬と同情とは拂つてたのです。夫れが餘り思慮の淺い世事にうとい確かりした根柢のない頭の娘さん達が、ふいとした動機から煽動的に世の一般婦人に自分等の立場とか將來とかを忠告し、警告するのは洵に寒心の至りです。それに之れ等の婦人が問題として騷ぐ根源はといふと、大抵は男子が提供した問題で女子自身が眞に心から叫び出したといふのは殆どありません。男子の觀察が如何程峻烈だ、極致だと云つても、想像も及ばぬ位感情の微細な女、殊に若い婦人の心裡を十二分に解剖し得ない事は明からです。

けれどもその皮相より少しは內部に立ち入つた見解を持ち出して、婦人を論じた時、夫れが婦人全般に當て箝らないにもかかはらず小さい隅だけを見て、我が意を得たりと、忽ち圖に乘つて向ふ見ずの狂態を演ずのは、眞に憐れむべき事だと思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

思潮は絶えず動搖しつゝ一波一動毎に新らしい足跡を殘して行きますが然しこの二十年間の生活上に於ける思潮の變化は大した差ですね。日清戰役時分はまあ我が國に於いて一般的に生活難を口にしだした初歩でしたでせうが、でもいくらか精神的に眞面目に生を考へる餘裕は充分にあつたのでした。が日露戰役後になると前者のローマンティックに比して寫實的とでも云ひませうか。非常に物質慾が向上してきたのです。すべてが露骨になつて例へば戀愛に關しても、以前は男子すら秘して却々口に出したものではなかつたのが現今では女子が滔々と自慢氣に些の羞恥さへ感せず喋り散らします。放縱といはうか、不謹愼といはうか、自我の念が餘りに鼓吹され過ぎた報いだ等と抛つてをけない次第になつて參りました。

物質方面の生活の苦痛が益々急激に進み、從つてこれからは男子の手がさうさうは女子にまで及ばず、女子も自身に相當な見地に立つて前途の生活を考へなければならない場合に於いて『自分の支へる考は自分だ自分を導く者は自分だ、なあに男子などに賴らなくつても充分遣つてみせる、といふ婦人も出來るでせうがそれが一方に偏して了ふと、男子と對峙して立つといふのを通り越して、飽くまで獨身を標榜し、男子に先んじて一つ仕事を起し世人をあつと云はせて見やうなど云ひ出してこの乾燥無味な社會を一層、艶のないものにして了ひます。もし、それ丈けの勇氣、意氣地、努力を持つ婦人があれば、私はそれをよろしく家庭的に利用して貰ひ度いと思ひます。もそつと男子を廣く見て、婦人の自立の基礎を大きく固めて行くやうに、平たく云へば、現在に於いて既でに國民としての重大なる責任と個人としての多大なる生活苦腦とを蒙つてゐる男子に、徒らに婦人が賴り付いてゐる爲め、その上の苦しみを負はせず妻は妻、娘は娘相當な働きをして、男子の涸れ憊れた身心の慰め、一家庭をしつとり暖味のあるものにし、從つて社會に瑞々しい氣を充滿さして行くといふのは、實に我等國民として同胞間に於ける最大急務なる社會道德であらうと思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

富士詣

晶山生

過ぐる月の廿三日年來の宿志富士登山の希望を果すべく隧道多き中央線の夜汽車にて都を後に新宿驛を發す。

　隧道や煙汗の香人いきれ

翌朝未明大月驛下車窮屈なる鐵道馬車に乘じ吉田に向ふ。

　馬車涼し青田波打つ曉の風

日中の暑さを旅亭に避けて夜山と決め黄昏近く淺間神社に詣で御馬返しさして沙漠にも似たる二里に餘る裾野を辿る十三夜の月限なく照りて右手に川口の湖面恰も鏡の如し。

　草鞋重き埃の中や蛇苺

　薫風や木の間にゆらく湖の月

御馬返しの茶屋に腰を下し糊氣なき飯に夕餉を整ふ味に反して値中々によし聞へば之よりは御山相場とて凡ての物價は五六割増しが通例なり鷄卵一個ラムネ一本何れも六錢也此處より吉田迄馬車を通じ五合目へ馬の往復するあり

　犬蹴や御馬返しの路導

　燻りしランプの笠や羽蟻飛ぶ

　値を聞いてラムネの呻殘り惜し

一合目の宮は之と強力に敎へられて横目に拜し月影疎き木立の中を露草に冷つく足重く信玄公の祈願所たりし二合目の宮に至る。

　夜氣こめて着茣蓙の冷や夏の露

　蔦の花木の間の月に匂ひけり

一本の煙草に勇を鼓し強力の說くに委せて「六根清淨お山は晴天」など口々に稱へて行く程に登る程に道の險しさ步毎に增す金剛杖を便りに足引き摺り軍歌なんど頓狂に唄ひ出す者もあれど疲れに續かず三合目を過ぎて漸く四合目に着く眺望甚だ佳なり吉田の町淡く一筋に光り川口山中の湖面月に輝く一碗の澁茶甘露の如く思はず足の輕きを覺え五合目は一意氣と立ち上る。

　道險し肌に冷やつく靄の汗

　目に涼し今來し方の遠灯

　岩梨の鹽押しうまき澁茶哉

道に横たふ木の根石ころなどに躓くこと數ならず馴れぬ草鞋に踏み出したる豆數個元氣は次第に衰へては暮れて道遠しの感愈深し

　笠叩く葉末の露や膽にしむ

五合目の指宿に着きて蘇生の思ひをなす導く老婆のいと丁寧なるが嬉し脚絆の紐も解きあへず上り込む時に十一時半なり「まあ御仕度でもなされて蚤も蚊も居りません悠然御休み爲さいませ」と心からの御世辭。

　風蘭の香に草臥を忘れけり

　綿拔や嬉しき婆の心だて

　塵の世の蚤蚊を餘處に夢安し

携へたる罐詰なんど取り出して酒に疲勞を忘れんものと熱燗にて飾りありし正宗數本を倒す醉更に至らず蓋し酒と名づくる水位ものなればなり薄き蒲團に丸寢の夢淺く起されて瞼頗る重し一杯の雪水に漱ぎ膳につく不味なること聞きしにも增して意地にも我慢にも咽喉を通らず炊ぎ下しの飯に茶を漬けて辛じて一碗を呑む

　梅干や顏見合せて飯をのむ

　一碗の汁一疋の鮨かな

燭して草鞋に穿き違ひもなく曉の闇へと飛び出づやがて植物帶を出づ是よりは一樹の蔭一本の草さへ容易に見る能はず此處を俗に天地の境と稱す經ヶ嶽に至れば東天眞紅を染めて得も言はれず此處に御來仰を拜まんものと憩ふ程に雲か山や分ぬ彼方より大なる神鏡の如き太陽の昇天する樣爽快限りなく何れも神祕の感に打たれ一語を聞かず

　御來仰に萬籟死して息をのむ

　法の德もたらす曉の風涼し

　曙や新涼の氣を太くすふ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

今迄の道とは全く趣を異にして益々急にしてコークス殼の如き焦砂さく〳〵と音して三歩に二歩をもどる仰げば六合目七合目の各石室頭上に高く懸る白衣の行者旭を受けて白蟻の行列に異らず行く〳〵憩ふと運ぶ歩數にも比すべく五時間を費して八合目に至る呼吸頻に衣は冷汗に絞るが如し此處にて御殿場須走口と三本合して一道頂上へ續く紀念にとレンズの前に立ち携帶せるサイダー、シトロンに渇を醫し頂上目懸けて懸崖を攀づ俯瞰すれば下界は一面綿の如き雲に覆はれ身は天上に在るの思深し碧間より吹き出す霧肌寒く晴れては曇り曇りては晴る神速掌をかへすが如し正午に近く頂上に達す風起り霧寒く自ら身振ひす名物の甘酒に暖を取り晴間を見て自らを鞭撻しお鉢廻りをなす親不知子不知の險を越え賽の河に小石を積んで供養となす此の邊り水蒸氣を發し地上熱氣ある箇所あり野中至氏の測候所を見官幣大社の奥宮に無事長久を禱り富士山郵便局より朋友知人に紀念通信を爲し我國最高の劍ヶ峯に登る天晴れて麗に小春日の如し前には沼津清水の海開け後に遠く甲信の連山を望む目の届くところ幾百里なるやを知らず足下には大なる擂鉢の如き舊噴火口中に萬年の雪をたゝへ周圍の奇巖之を抱いて雄大なる自ら粟然たり下りて雪に口中を冷やす銀明水一瓶を苞に戴き三時に近く下山の途に付き砂走りを止度もなく駈け五合目に憩ふ上り五六時間を要したるを僅四五十分にして下るとは如何にも心地よし須走村より御殿場に至り新橋行列車の客となる敢て體力を養ひ偉大なる靈山の氣分を味ふべく讀者各位の登山を勧告す。

和歌

與謝野晶子撰

近藤なほ子

もの見れば涙のおつる弱き子に
灯ともし頃の風冷たけれ

戸をたてゝ泣けば苦しき胸のやゝ
なぐさむこともはかなかりけれ

河村明子

川ぎりの中を飛らし白き鳥
戀しき君を導きこずや

椛島操子

なき父が愛で給ひける白梅の
綻びそめぬ雪ならなくに

水車飽かずもめぐる音すなり
白梅咲ける川ぞひの道

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

オフィスの窓から

中尾清太郎

はしがき

私は毎年夏になると、妙に漢籍を漁り出す癖があります。今年ももう此頃では、毎日日が暮れると、蚊帳の中に這入つて寢そべりながら、列仙傳だの、捜神記だの、虞初新誌だの、聊齋志異だの、夜譚隨錄だの、煎燈夜話だの、そんなものばかりを取り出して、勝手なところをめくつて讀み出します。そして枕頭にどつさり本が積まれる時分には、うとうとと寢入つてしまひます。朝はまた蚊帳を外さないうちに、やつぱり横になつた儘、『エダ』のやうな、『ウパニシャド』のやうなさもなければ原始的な味のあるオッシャンの詩だの、カイアムの詩だの、さう云つたものを、心靜かに味つてゐます。此時が私の極樂ですね。其中に世の中の噪がしい音が耳に響いて來ますと、すぐ私のあたまはかき消されてしまひますから、それを一きりとして、蚊帳から出ます。あとは、もう俗事で、日の暮れるまで進行します。――其俗事の間に、ちよいちよい私の感じたことを書き列ねてみましよう。

女の淺薄さ

＊＊事件で拘留中の某代議士夫人が、某氏引致の當時、東朝の訪問記者に語つた言葉の中に、『妻として斯う云ふことを知らないのは恥づかしい次第ですが、私は全く存じませんでした。』と云ふやうな口吻があつた。私はそれを聞いてをかしく思はないでゐられなかつた。一體日本の男が其家庭に於て、何事も妻に打ち明かすものと思つてゐたらしいのが、私にをかしく思へたのだ。斯う云ふと、忽ち私に疑がかかるか知れ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ないが、私の事は姑く預つて戴いて、某君のやうな辣腕政治家が、如何に其細君が美しいからと云つて、さう腹の底までぶちあけるものぢやない。と私は思ふ。これから推して考へると、夫人はまことにおとなしい、從來の型に在るやうな、日本婦人を代表してゐるものだ。そして常に敎會入りをしてゐるコンヱンショナルなお人善し婦人の淺薄さを遺憾なく暴露してゐるものだと言へる。これは何も惡口ぢやない。遠慮のない批評と云ふものである。

女に自分の說はないか

妃殿下達が月每に各番主催となつて東洋古來の婦德講話と云つたやうな會を開かれると聞いた時、私は妃殿下達が自ら講演し給ふとは有り難いことだ。此頃の女のやうに、他の說ばかり聽きたがつて、自分の意見を立てやうとすることを知らない時代に、率先して多くの女の手本を示し給ふとは何と云ふ愉快なことだと早合點したら、そいつは全く見當違ひだつた。やつぱり三島翁だの、細川翁だのを招いて、講話をお聽き遊ばすのだとわかつた。抑々こんな催しは、かねて文部省などが先に立て、いろいろの講習會みたいなものを開いたから、男も女も何でも聽きたがる風が出來たのだ。しまひにや小波や久留島のお伽噺まで聽きたがるやうになつた。惡い習慣だ。いつになつたら、女が獨で敎育し、自分の意見を他に聽かせるやうになるのだらう。

學童掃除問題と女の愚

學童掃除問題に就て、三浦謹之助博士夫人が、お茶の水高女に言ひ出た言葉が面白い。『私の娘には掃除をさせて呉れるな。私の娘は一生さう云ふ事をさせなくても宜しい。』――何と云ふ沒常識な、無智な言ひ草であらう。其言ひ草の前半は認めるにしても、後半は全く言ひ過ぎだ。子供は將來どんな運命に逢ふも知れないし、また子供自身がどんな考にならうも知れない。よし、そんな運命は或る保險が附いてゐて、萬萬來ないとしても、子供の將來の考にあることをまで支配しようとするのは子供の人格を沒した干涉だ。此御夫人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

も随分舊式のあたまで、おまけに餘り賢夫人でもゐらせられないと見える。

元來私は天照大神が、『我子孫世世王たるべきの地』と仰せられたのをさへ「そんなことはあるまい」と疑つてゐる方である。私達の先祖は、もつと自由な考で、もつと現世的であつたから、そんな子孫の事をまで彼此仰せられなかつたらうと思つてゐる。多分記紀の記者が筆先から捻り出した漢文かぶれの結果であらう。しかしそれより後の、子孫の事をまで彼此心配する風は、斯う云ふ所から養はれたものに違ない。

（こんな事を思ひながら書いてゐる所へ、たまたま『都市教育』の七月號が來たから、ちよいと筆を擱いてなかみを見ると、『學童掃除問題は天下の愚論也』と云ふ大論文がある。掃除をさせたからとて強ち非衛生ぢやない。それにはそれ丈の準備があり理由があつてさせてあるのぢや。厭なら學校へ寄越すなと云ふやうな議論である大に我意を得てゐるのだ、一體、文部省系統の學校へ子供を入れるのが了簡違ひの初めである。私は此論者が教育者らしいので、教育界にもこんな人があるかと、先づそれに感心した。

無學から來た女の不注意

少し古いが、沼波瓊音君の息子の十二歳になるのが、其歳になるまで學校で低能兒の扱を受けてゐたと云ふのが話の發端。或る時、瓊音君の友人の澤式君（醫）が訪ねて來て、其子を一目見ると、『これは近眼だ適度の眼鏡を掛けさしたらよからう』と云ふやうなことで、早速近眼鏡を掛けさしたところが、子供はそれから、まことにはつきりした心持になつたと言つて、學校の課業もよく出來るやうになつたと云ふのだ。それをば新聞が傳へて、新聞や雜誌は學校の不行屆を責めたり、又沼波君も教育者の不明を咎めたりしたやうに覺えてゐるが、それは新聞雜誌の議論も。又沼波君の說も當つてゐない。私に言はせれば、其責任は主として沼波君の細君の無學から來た不注意に歸する。尤も沼波君も同罪だ。自分達の子の十二歳になるまでの近眼を知らないと云ふのは、學校の不行屆でも、教育者の罪でも、何でもない。そんな恥ざらしな議論はするものでない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

精神能率增進法、健康能率增進法

西村卜堂氏著

前者は、著者其の專攻せる人間研究の立場から近頃喧ましき能率增進法を批評してモット根本に溯り、人間の分類からしてかゝられば、牛と馬とを一つ鞭で使はんとする樣な能率增進法になると云ふことを論じたものである。此の書を讀めば合せて性相學の大體に通ずることが出來無益に頭を使はぬ秘訣をも知ることが出來る。

後者は生命哲學。心身相關の原理、人性學の由來及概說、人性學と健康增進問題、健康增進法と余の實驗及び健康增進と食時律とを論述したもので、之れを讀めば自然療能の覺醒術を知ることが出來る。

「健康增進法と余の實驗」てふ章の中に

△或る時の事であつた、余は右の獵の上の必要から、一匹の獵犬を飼つて之れを愛してゐたが、其犬がふと病氣に罹つて食を取らなくなつた、……遂に之れをどうしたら好いか分らなくなつて、一獵師に相談したところ、其獵師は案外平氣で、

『ナアニ放つときなさい、奴等病氣の間は何としても食はれえが癒つたら又盛んに食ひますで、人間よりや奴等の方が餘つ程自分の病氣を能く知つてまさあ』

と云つてゐる。……其儘打放つておいたところ、果して五六日經つと、病氣はケロリと癒つて、盛んに又食ひはじめ、元氣は忽ち恢復したのである。……

余は早速此の自然療法としての「病みて食はざる」方法を實行して見ようと決心した。此の決心が出來て以來は、一日一回の食事みも取らぬこともあつた、すると二週間位すると眞個の食慾が出て來て、飯がダン／＼と旨くなつて來た。

△食後の催眠……先づ他の動物などに就て實驗して見ると、彼等は滿腹になると必ず快く眠りを催すのである、又小兒なども乳が足りてお腹が出來ると必ず眠つて了ふ……余も食後眠たくなれば必ず眠る事にした。

△余は子供の時から習慣的に流動物が好きで湯や茶をガブ／＼と飲んだ、所が段々と身體が弱くなる一方……此の流動物を取らなくなつてからは、ずつと胃が輕くなつて引しまつて來たのである。

などと書いてあつて、此の種の經驗から得た自然の食時律を丁寧親切に述べてある健康に注意する人の是非一讀せねばならぬ書である（定價前者五十錢、後者三十五錢、東京市麴町區有樂町三の三　人品雜誌社）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

秋と沈默

白兎女

久世の丘にカナカナ鳴いて居た蜩もいつしか聲をひそめて、つくづく法師に秋の氣分は四邊に流れ出してきた。太陽も薄黄に輝きさはさはと吹く風にも秋らしい匂ひが漂つてゐる。これからは全く靜寂と沈默とが懷しい時だ。孤獨を喞つ蟋蟀にしろ、群衆を表徵する雁群にしろ其背景には必ず靜寂と沈默とが伴つてゐる

○

初秋の夜を心の會つた友と語る事は却々愉快である蒼白い花を斯の下で眞暗の闇から遁れてくる底冷えのする風に、思ふ儘肌えをなぶらせ乍ら、しつとり自分の好む書を繙き夜と自分の魂と書籍とが溶け合つていつ迄も乳色の霧の中にでも浸つてゐるやうに感じた時計らずも友の來訪を受けると其嬉しさは到底他に代るべきものがない幸福のやうに思はれる。

○

一人居の靜寂には、自分の全生命の流動が一つ處に集注されて、比較的平調を保ちつゝ眞夜中の月のやうに少しの亂れもなくて、淺ましい程騷ぎ鳴る血潮の音も絶え、底深く澄みきつた靜かさでゆつたり湛えてゐる時に、まるで凡俗を脱して神に到達した得意さを感じられる。其時に私は飽くまで默して秋の夜の自然の影を求め、そして捉へやうとする。

自然の神秘が私の胸に響き、映り、聽えた時、私は私の胸に言ひしれぬ尊さと懷かしさとをもつた靜寂を受け入れる事が出來る、すると私の心は、ふうつと堪へ入るやうな音を曳きつゝ自然の神秘にその姿を沒し去られる。

そして私は自分が神樣になつたやうな氣がして來るので自分を帝王のやうに尊み、且つ自分の支配者を自分以外に認められなくなる。私はこの靜寂な時間を過

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

す唯一の方法として、沈默を一番好む。

○

友達と對坐した時、我即神の境に游泳してゐた心を其友の頭から掩ひかぶせて征服した時の痛快さ加減！

自分の生命の流動が其友を迎へた瞬間、ふいと他にそれだとしても、直ぐに夫れを引き戻して其友の心を自分と同じ氣持にして了ふ時の快感は何ともいへない誇らしさである。其友がほんの少し許りの沈默を把持して居る人であつたなり、私は其人の心をあらゆる手段で自分に近づけ、夜の靜寂と沈默との中に突き落す私の生の流動と友の生の流動とがもつれ合つてどちらにも偏らなくて、もがいて居る間は同じ沈默を味ふのにも、苦痛であるけれども、其瞬間が濟むと相互の胸には爽快な微笑が芽ざして來る、即ち自分の影が友に友の影が自分の心鏡に反映して來るのである。

○

五人十人と集合して沈默の境に立つた場合は二人の懐しい微笑を續けたのとは大分離れてゐる、私はかうした沈默にはいつも其集合體の中心點を探す事につとめる。各自異つた靜寂を持つた人が一團體となつて大きな靜寂を形成つたと見做すと、各自の靜寂を連ね、集めてゐた一中心點がなければならない。其中心點を基として各自の沈默を集めた時には初めて其處に、前の友人間と同調な懐しい微笑の沈默が成立するけれども何の目的もない、勝手な沈默を續けてゐたならば、益々坐は白けて、不安らしい次の狀態を思ひ及ばねばならない譯になつて來る。

○

私は曾つて『あらゆる存在の原始と終極とは沈默である。』といふ言葉を聞いた。

私は此の意味深い尊い言葉をいつも、服膺して物事に臨んでゐる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

十二歳から廿一歳迄の女（續）

みをつくし

——娘時代に顯はれる不正直の一形式——

青年期には殊更に快樂に對する熱望が盛んである、從つてその目的を達せむが爲めに時には不法なる言行に出る事になる。これは智識が啓發せられ心の窓が開くにつれて起る事で、幼年時代の無邪氣な遊戯では滿足せず、何かもつと面白い事を望む結果道德觀念の基礎に不安定を來すからである。

娘時代に起る盜みの心は學問上「盜心狂」と呼ばれて居る。是に對して數多の見解がある。卽ち一は道德觀念の一時的消失に其因を起し、二は法律上の制裁を承知しながら故意になす事に其說をなす、前者は精神上の一時的缺陷——一種の病氣であるとし、後者は當然行爲者の責に任ずべき犯罪であるとするものである然しかゝる行爲は直ちに犯罪であるとするのは或は早計であるかも知れぬ、何となれば多くの場合、この萬引行爲の動機が甚だ不明瞭であるから。萬引者——女殊に若い女に限られて居る——は、盜んだ物品に對して迫られた必要や、目的があつたのではなくて、たゞそれが欲しいと云ふに過ぎない、故に多くは盜んで歸つても、自分には全く用事のないものであつたり、又はそれを自分の必要品として使ふ事は少なく單に萬引して持ち歸ると云ふに過ぎない。又或說に從へば、萬引の出來心は自分でも惡い事であると覺り乍ら、しかも制する事が出來ぬと云ふよりは自分の力では全く何うする事も出來ないものであり、且つ青年期にのみ發して老年者乃至壯年者にないのを以て見れば、確かに盜心狂は發作的の道德觀念消失病であるとするにある

而してそれが盜心狂であつても亦、何か誘惑によつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

てなされたにしても、其眞の情狀を充分考へてやらなければならぬ、決して直ちに罪人とする事は不可である。何となれば本人は自分の行爲が法律によつて罰せられるものである事を充分承知しながら、然かも如何ともする事が出來ない心理狀態にあつたのだから、この事を考へて然る後處置をする事は最も必要で安全で正當な事である。

も一つ娘時代に多く見る陷缺は、贅澤から誘引されて、負債を勝手に作る事である。是れは子供から大人にならうとする女の過渡成長期に自然的に發する、外見を飾る事と虛榮心とに起因するものである。右に列記した娘時代に顯はれる不正直は年をとると共に自然消滅するものであるが、此の消費及借金をする惡性は此等に反し年と共に益々增進する。

附　種々の不健全な狀態

――惡口及卑隈な言葉遣ひ――

下品な言葉を用ふる事は女の子より、男の子に多いけれ共時には今迄さうした惡習の全くなかつた娘が、何かの機會によつて、非常に卑隈で不淨な言葉遣ひをする樣になる。女は恐怖や憤怒の場合には「泣く」と云ふ發作を天から與へられて居るのではあるが、或種の娘はさうした場合に、惡口を言つたり又は野卑な口を聞く。それは自覺に起因する「見えを張る事」が原因をなすのである。

斯樣な場合には父兄たる者は其娘が野卑な言葉を發する每に非常に驚いて見せるのがよい。或は全く聞えぬ風を裝ふのも少からず矯正の效がある。

又此時代にありがちなのは、意志の作用を失つてしまつて全くの怠け者になつてしまふ事である。能動的でなくて凡て受動的になる。學校へも行かない、ジッと坐つたきりで目の前にある書物を見つめたきり何もしないで茫然として居る。

又周圍の人や事物に對して非常に不規律で辨別力のなくなる娘もある。お化粧でもして身綺麗にしなければならぬ年輩になつても、一向かまはぬ。さうした娘に對する監督法は娘のなすが儘に放任し、又全く幼年

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の子供に對するつもりで取扱ふのはよい。さうして自然に目の覺めるのを待つより外に途はない。

次にこんなのもある責任感念の全く缺乏したり又常に夢を見て居るやうな狀態に沈んで居るのもある。之れは主として健康を損じて居る爲め元氣を失づた結果である。

總て是等の症狀は主として自覺と責任感念と健康の喪失によるのであつて、さうした結果數々貧血症又は心の擾亂を引き起す。さうして甚だしく不活潑で責任感念を全く失つてしまふ。さうなつた場合には娘の任意に放置して置く事は危險である。何となれば、彼には自分を支へる力がないのであるから、一人立ちの出來る樣になる迄適當なる保護者の周到なる注意を必要とする。又其意志に刺戟を與へ相當なる責任を負はせて漸次に誘くのがよい。而して囘復して來たらば、今度は近親の者よりも全く他人の間に起臥せしむるのが大に效果があるから、相當の保護者の下に或る期間寄宿舍等に入れて個人の責任を感せしめ克己心とか自立感念とかを養はせなければならぬ。

娘時代に起る普通の憂鬱病は性に關したものが多いが、以上列記したものは性の問題によつて誘起せられるものではない。

――是等病症の治療について――

爾來數囘に亘つて書き列ねた娘時代にのみ見る多くの病氣――腦神經病は心配をした結果起ると云ふものは殆んどない、其原因は主として腦細胞に複雜なる變化が起ると云ふ此年頃通有の自然的生理作用にあるのである。是が主因となる、病氣を誘ひ出す直接の近因は遺傳、四圍の情況、教育及特に生れながらの氣性の如何によるのである。

兎に角娘時代の道德的煩悶は自覺感念と自由意志の覺醒によつて起るものである。だから青年女子の監督者は此の自覺と自由意志を上手に操つて行くのが最も必要である。又青年期には感情、想像の觀念が非常に活潑で發達が速かであるのに反して、理性方面の發育が遲い事も注意すべき事である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

青年女子の心理狀態を研究しやうとする人は第一に此の事を忘れてはならぬ。

――母親の注意と氣轉が必要――

十二歲から廿一歲迄の娘！　此の年頃の娘を持つた兩親殊に母親は其敎育法については充分の眞面目さを持つて研究し、娘に對さなくてはならぬ。不斷の注意の必要なる事は勿論であるが、又一方に娘の自由意志を充分認めて導かなくてはならぬ。自由意志を尊重する事は子女敎育に最も必要な事項である。

大事件ならば親の考へを借すのが必要であるが、日々に起つて來る些細な事は全く娘の意志に一任して、干涉してはならない。そこに多少の困難と工風と苦痛とを與へなければならぬ。さうして母親は自分の考――卽ち大人の考や心持をそのまゝ娘に强ゆる事は最も危險で何等の益ない事である。かゝる事は世上の親たる者の最も注意すべき事である。若し娘の意志を無視し、大人たる親の意志に從はせる樣な事をして敎育したなら、その娘は最も不幸な一生を送る事になる。米國で近來注目されて居るストオナア夫人（米國ピッツバアク市の）の「自然敎育法」(Natural Education)によつて敎育された其娘ウキンフレッド・ストオナア孃（本年十二歲）の非凡なる才能は卽ち此事の裏書である。ウキニフレッド孃は二歲に達せずして立派に普通の讀書が出來、三歲で歌を作り、「タイプライタア」をうち四歲で「エスペラント」語に熟達し、七歲で歌集を出版し、八歲で七ヶ國の國語に通じ、十一歲ではカアネギイ學校の敎師となり、米國の將棊の名人を打敗り、十二歲の今日では最早や文武諸藝に達せないものはないに至つて居る。

ストオナア夫人は娘の意志に一任して自然敎育法によつたので。犬は「ワン〱」雀は「チウチウ」汽車は「ピイポッポ」と敎へられる子供は實に不幸である。子供を尊重しなければならぬ。しかも是等の事は中々實行に困難であらう。

赤く熱して居る「ストオヴ」へ手を觸れやうとする子供に「いけません！」と云つて引きよせるのはよくない放任して置くのだ。そして指先を火傷して「ストオヴ」の熱くて危險な事を自分で覺らせる樣にするのだ。此の位の覺悟で敎育し指導しなくてはならぬと思ふ。（完）

此のつまらぬ記事もこれで稿を止める事になつた。永々と隨分下らぬ事を書いた樣に感じられて甚だ心苦しく思ふ。（一九一五・八）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

日記から

有田　倭文

八月の或日

尖つた午後の光線が痛い様に體をさす、丁度硝酸をつけた後の様に…………然し私は此熱い日光の直射する處に立つて眞の自分を見たいと思ふ。生きて居るんだとの自覺を強く味ひたいと思ふ。――けれど――私の心の奥から今の考へを嘲ける様な聲がする、お前の幾多の細胞の一つとして強い處があるかお前はお前以上の事を思つてはならぬ、死の刹那を詩的に味ひたいなど思つてをるお前に何うして眞の自己が見えるものか、お前が眞の自分の姿と思つて居るのは信念から出た自己の幻影ぢや、地平線上を見てはならぬ――もつと、もつと自分の足元を見るのぢや…………私は疲れて居る、夢を見て居る様だ――私の體は今疲れきつて何うすることも出來ぬ。今私の頭の中には婦人運動のこと、婦人倶樂部設立のことなど計畫されて居る、然し今は何うする事も出來ぬ、私はほんとうに疲れて居るのだ、少し寐むつて見やう。

斯う思ひ乍ら私は自分の冷靜に靜止した姿を胸に描ひて見た。

八月の或日

ぢいぢい、ばちばち〳〵と濁つた放電球の音がする、私は眼を開いた。私はKさんの實驗室でうたゝねをして居た。蒸す様な暑がヂリ〳〵とつめよる様に思はれる私は胸をはだけて團扇を使つた。充血した私の瞳は弱い視線を空に投げた。Kさんは薄い白シャツを着て垢れた顔をして火花長を測つて居た。

室一杯に取り散らしたターミナルがプラチナや黄金色に光つて居る。三十八番の絶緣線が機械にからみ付いてたり黑い乾電池が不行儀に並べて、電流計や斷續器、蓄電池、スウイッチコンデンサーなどが所狹きまでに置いてある、机の上のランデンビンばかりは行儀好く二つならべてある。天井には蜘蛛の巢の様に針金を引廻して片隅に空中線が立てゝある。發明家の實驗室――此狹い室から世界を驚かせる偉大なる發明が生れ出るのか知ら…………私は疑がはしい眼をして今一度Kさんの顔を靜かに見た。Kさんは相變らず汗ばんだ顔に眉根をよせて無線電信用の受話器を車にあて片手でキイを押して居る時に小首を傾けるKさんの横顔にはほんのりと紅味を帶びて少し肉の落つた頬には刻のある鼻がクツキリと高く、黑曜石の様な瞳みには疲れの色が漂うて居る、男には惜しい様な黑髮が眞白い額の半ばまでかぶさつてうねつて居るミケランゼルの彫刻にある様なKさんの顔は印象深い面ざしである。Kさんは發明家で又化學者である。いつも何か考へ事する時は比較的大きな頭をうつ向いて室内を歩き廻るのが癖である。あまり物を言はぬKさんは時々獨言を言ふ。

Kさん疲れたでせう。

私は使つて居る團扇の手を休めて斯う云つたKさんは耳に當て居た受話器を手で壓へて默つて首を振つた。

…………………

二人の間に暫し沈默が續いた。

…………………

未だ若いKさんの發展はこれからである、沈默で美くしいKさんは極端な自由主義者で又一面詩人である。商業にそゝられる若き情緒を筆にしたのもあるとか、Kさんの好きなシエレーの雲雀の詩をかすれた聲で聞く時私は情に燃えたKさんの瞳(ヒトミ)を見る事がある。

暫くしてKさんは仕事の手を休めて斯う云つた。

今に金星の人達と無線電話で話が出來る様になりますよ」と云つて笑つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

南總より

東大寺多代

〔南天の實の赤いといふ此地も夏分は瓢箪、絲瓜の蔓草がのび〳〵て、晝なほ小暗く蚊軍の鋒先激烈を極め、遊ぶに餘念なきかの柔い手といはず、頰と言はず、螫しさいなむのは恕し難く、堪へ難きことに候たゞ水邊はさすがに厲の要なく、かつは私の嫌な電話の請け答へをさく〴〵、兒らの誘ふまゝに日每例の海へ足を通ばしつゝ之あり候。

○いつも春の海のやうな、と愛で賞うべきなれど、當らんに石一つ無い灣内の水は、池水に比ふべく、波濤の姿なんど見んすべもあらず、大阪の姉うへを思はせられるやうで、はた大きい聲でものも言ひえぬ自分の影のやうで、痛々しうあはれと見るのは僻目にや。

○水のある時は兎も角も干潮時は御承知の遠淺とて小さい彼らの頭髮のいとゞ小さくなりもてゆくを、見失はじと打まもるは、易き業ならず、いり亂れ、打混じては心あてに、これか、あれかと、果てはあらぬ人を看てあるなど、笑止の沙汰に候べし。小學生水泳中の監督など、其困難のわざまさに想像の外と存候。こは別箇の問題にはあれど、かの女學生には是非とも水練上達の女性の引率なうては叶はず、衿脚のやけるのを氣にするやうな、所謂海水浴でなうて、盛に上手に遊泳術を教へられたきものに候。

○こは昨夕の事、例に依て游泳中の彼らを見守るべくお湯のやうに沸いた海水に膝頭を洗はせつゝ、夕陽に相對し、突つ立つたる程に「大變！」「大變！」と我にかへつて振向くと、今まで要塞とか軍港とかを拵へてゐたあの次男、それが蟹に小脂を挾まれたといふ騷ぎです。なんのそれは蟬の脫殼ほどの小さい蟹で直き放しました。大變といふ言葉の好きなお守さんで一寸驚かされ候もの〻まづ〳〵目出度相納り申候。

○海の人が陸で動き出すやうになると、日もやう〳〵沈みゆいて、凉風清く、靑く、雲のいろ、水の色實にすが〳〵しく、初めて美しい心地に相成つて候。

この海にて煙波を願ふは無理、あゝされど日沈後の三十分をたゞ御許樣とこの水際に立並んで語りあはゞやといと切に望まれて候かしこ。

玉露樣より

御手紙有りがたく拜見例の通りこんな所へ避暑して居ります。

ひまで御座いますから何ぞと存じまして紙ももつて參りながらどうしたのかちつとも筆を取る氣が出ませんの別所だよりなんかもあんまり知らない人御らんになるのぢやつまりませんでせうしれえ外の事は私今少し心がさわがしいのでどうもいけません女兒三人女中と私質朴な所で御座います少し東京より凉しいやうで御座います。

面白いお話、どんなの伺ひたう御座います、御あつさないとひ遊ばしまし私こそ御ぶさた御めん被下まし返事まで（信州別所溫泉にて）

深谷樣より

時下切に御自愛を祈る

益々發展なされつゝある御樣子内容豐富となつて誠に嬉しく愛讀して居ります。（八月三日）

吉川たみ子樣より

いつも變らぬ御勇氣をもつて益々御奮闘のだん感服の外なく存じ居候雜誌送つて戴くのみにて一向に投稿も致さず慚愧の至りに存じ候本年は隨分の大作にて農事の繁忙一方ならざる上に先便申上候通りの都合にて私が再教鞭を執る身となりたるため一寸の餘暇もなく不得止御無沙汰致し居り候へども近々暑中休暇にも相成候まゝ當地の景況でも申上ることに可致候當地は只今ほたて貝大漁にて大景氣に御座候詳しくは次便に（北海道北見幌内新生園にて）

菊地八峯氏より

拜啓今度賞金御送附被下誠に難有頂戴仕候は御禮旁々御知らせまで早々

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

編輯餘錄

文子

〇今月は學校やお役所に勤めてゐる人は暑中休暇だと云ふに、私はかなり忙がしい月であつた、其かはり又面白い思もした、七月二十四日に雜誌の雜用を片づけて近縣まで十年越しなつかしんでゐる友と云ふよりは伯母さん？姉さまの樣に思はるゝ夫人を訪れた、まだきに兩國に行つた、久しぶりの汽車旅行、何とも云へぬうれしさである。さま〴〵と想像し空想に耽つて行つて見ると、隔てなく迎へられた、夫人とお子さん方は思つたより猶一層確かりした方々で、氣取り氣なくさく〳〵とした處が、何となう自分に共通の點が多いのでうれしさ限りなく、終日海濱で遊んで夜に入つて歸つた、此の夜兩國の川開きで始めて其雜沓振りや、美くしい花火が多く見られた。

〇七月からモウいくつ寢たら〳〵と樂しんでゐた雪子はなほ子さんにつれられてとう〳〵八月二日に府下南多摩の近藤さんの鄕里に行つた、忙がしい自分はもつと充分用意してやりたいと思ひながら人から貰つた洋服に靴を買つてはかせてやつた他に浴衣二三枚持たせて。どうせ直き歸りたくなること、思つてゐると、とう〳〵お盆をして來るものかまだ歸つて來ない。雪子が出立する前日今度引越す と云ふ家に一しよに來て見ると今まで田舍に行くのを樂しんでゐて、モウ五つ寢た四つ寢たと每日うるさく云つてゐた雪子がふと『モー行かんでもいゝわ、行かずにおかう？』と云つた時『いゝえ切角樂しんでゐたのだから行つてゐらつしい』と云つた私は留守中思ひ出しては、このまゝ別れて了ふ運命になつたらと愚痴をこぼしてゐる、八つになる長女の獨り旅、これも私の日記には特筆しておいてよい、十三になつて始めて京都の寄宿舍に入つた私は每日〳〵夕方歸りたい〳〵と泣いて居たが今の小供はきついと感心してゐる、而し長男は十一になつても私のお圖へさへどうしても獨りでやう行かない弱虫である。

〇近藤さんは鄕里に歸省した、河村さんもお父さんの膝下で每日〳〵家事をいそしんで弟さんの世話や何かと一生懸命に働いてゐられます、『若い人の二倍も三倍もして見せなければならないから』と云つて、何事も氣にしないまでに修養してゐらつしやる相です。

〇二三ヶ月前から記者として盡力下さる鈴木郁子さんが今月は殊の外に活動して下さいました、その爲め非常によい原稿が澤山集りましたのですが紙數に限がある事ですから遺憾ながら左の原稿を來月號に廻しました、あしからず願ます。

△山田きよ子さんは先達來大病におかゝりになりましたが、幸にも御全快になつて、はる〴〵ハルビンに旅行されました。

『病後の 旅行 にこゝまでまゐりましたが此まへの旅のやうに體が自由に成らないのでつく〴〵健康な時を戀しくおもひました。

今夜はハルビンへ參ります九月始めには歸京いたします。』八月十七日 浦鹽にて きよ子

△日向さんが今度引移らるゝと、例の新聞記者は自己の概念と一般讀者の考へ通りに添ふ樣に、平家物語か源平盛衰記でもあるかの樣に、內容もない文字をつられて報導しました、人の生活は主觀的のものだから外部から見る目と自己の見る目とは違ふものです、日頃の氏をよく知つてゐる私は深き自信を以てお訪ねすると、果して新生活に入つて便利であるとを大變喜んでゐれました。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

岩野清子氏へ

今度岩野泡鳴氏は新らしい婦人が出來たについて、今迄の夫人清子さんとは別居することになつたと云ふ。新らしい婦人は鳴泡氏の弟子で[illegible]な口授して書かせてゐた人だと云ふとである、泡鳴氏日頃の主張から見て決して珍らしいとでも何でもなからうが、私は清子さんの處置が不思議でならない、此際清子さんは先妻の子の十三なるのと自分の子とを養育する約束で泡鳴氏から收入の三分の二を仕送られる約束だと云ふとである。新らしい自覺ある婦人がまさか生活の爲めに『小供の守にでもして下さい』と希つた昔の古い女の型でもあるまい。まして、嘗ては『自己の子でさへ、自己の成長を妨げると思へば憎いものだ』と云つて問題にした清子さんが、先妻の子まで養ふとは從順過ぎるではないか、女がそんなに弱ければこそ、男は身輕でいつまでも、幾度も仕度い放題の事が出來るのである。かゝる場合先妻も清子さんも子供と云ふ子供は皆泡鳴氏に預ければよいのに、それとも屹度やがて自分に歸ると云ふ自信でもあるのだらうが、清子さんも愛想がつきて相談づくでの物別れならよいが、でなければ、もつと強く〳〵出て欲しいものである此の人にしてこんな結果になるとは何としても物足らぬ、家庭は夫婦の組合組織である以上、夫婦は連帶責任であらねばならぬ。

來月號豫告

『天才婦人號』と云ふ特別號にするつもりで御座いますから、どうかそれにふさはしい、いゝものを寄稿して頂きたいと思ひます。

强情張り	河村　明子
幼稚な謎	白　兎　女
露　臺	立石　蔦枝
私と私の小供	前田　雪子
生活の權威	豐田　曉潮

其の他なほ數篇ありますが、機會を見て掲載したいと思ひます。

○今度左記に轉居しました。

本鄕動坂町三百二十七

新眞婦人社

新眞婦人定價表（每月一回一日發行）

一　册（郵稅共）	拾壹錢
半年分（郵稅共前金）	六拾錢
一年分（郵稅共前金）	壹圓拾錢

御注意

●注文は總て前金の事前金盡くれば必ず「盡」の一字を朱にて帶封に認む直に送金なき時は發送を停止す●郵劵代用は壹錢又は五厘切手にて一割增

◎新眞婦人廣告料　特別面三十圓、一等廿五圓、二等二十圓、普通面十五圓、木版を要するものは別に實費を申受くべし

大正四年八月廿八日印刷納本
大正四年九月一日發行

本鄕區駒込動坂町三二七番地
發行兼編輯人
及印刷人　西　川　文　子

本所區香場町四番地
印刷所　凸版印刷株式會社分工場

東京市本鄕區駒込林町二百六番地　新眞婦人社
郵便振替貯金口座東京〔二四五五六〕

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

日ヤケは如何にして治す可きや

完全なる美顔術を行ふにあり、

完全なる美顔術は家庭にありても旅行にありても出來得るや

理容館の信用ある簡易美顔術箱によれば何地で何人が行ふも完全に

ニキビ、ソバカス吹出物を治し、**殊に暑期の日ヤケに特効あり、**

簡易 美顔術箱

（最新式携帶用美顔箱入）

一號九種入 金 四圓五十錢

二號六種入 金 三圓五十錢

送料 内地金十八錢 海外金四十錢

美顔術箱内容

一號
- ルーラー
- カップ
- ブラッシユ
- ミツト
- バリプ
- ハイジエクリーム
- マッサージ用クリーム
- ソープ末
- ライラック水
- 美顔術券

二號
- ルーラー
- カップ
- ブラシユ
- ハイジエクリーム
- マッサージ用クリーム
- ライラック水
- 美顔術券

理容館特撰化粧品組合

十五種入
- 水白粉
- 煉白粉
- クリーム
- マッサージ用クリーム
- 化粧水
- 粉白粉
- ホー紅
- 口紅
- マユヅミ
- ガーゼ手拭
- 固形ぬか
- セーム皮
- ハケ、三種

御婚禮用ニ適ス

特價 五圓・四圓・三圓 送料廿錢

振替一四一〇〇
電新一五一九

婦人御化粧專門所
理容館
新橋竹川町十二

純良無砂 固形理容ヌカ

家庭用五打入 全六十五錢（送十六錢）
一打入 金十五錢（送八錢）

理容固形ぬか、が純良無比で石鹼洗粉に優りたる理想的の美身美顔料なる事は既に皆様御承知の事實なるも本品は殊に夏場 **虫涌かず 腐敗せず 携帶に便** なるが故に避暑旅行用、又は御進物用として此上なき便利な逸品なり。

ニキビ取用
理容クリーム
特一圓並五十錢

理容白粉
顔用 五十錢
襟用 卅五錢

夏期用特製
ライラツク水
七十錢・五十錢

夏期用
白粉下クリーム
五十錢

南天棒　鄧州老師著

南天棒禪話

大石正巳居士序
飯田欓隱居士跋

總ふり假名
定價壹圓廿錢
郵稅八錢

機鋒辛辣得て近づくべからざるが如くにしてしかも慈敎懇到兒女童孩も亦度せずむば止まざるもの實に是れ吾が南天棒鄧州老師の面目なり今著はすところの禪話一卷卷中の所談悉くこれ釋尊拈華し迦葉微笑する底のもの縱橫に說き無礙に辯じて眞に四方八面來旋風打の概あり人若し南天の痛棒亂下し來るの間に立ちて平然としてこれを喫了し得ば則ち人間の大事こゝに成るべし冀くばまづ聊かこれを試みよ

大內青巒先生著　禪の極致　定價六十錢　郵稅八錢

鈴木大拙先生著　禪の第一義　定價一圓　郵稅八錢

大內青巒先生著　青巒禪話　定價一圓廿錢　郵稅八錢

忽滑谷快天先生著　達磨と陽明　定價一圓十錢　郵稅八錢

新井石禪老師著　修道禪話　定價一圓　郵稅八錢

竹田默雷老師著　禪の面目　定價一圓　郵稅八錢

菅原洞禪先生編　禪林奇行　定價一圓　郵稅八錢

釋宗演老師著　拈華微笑　定價一圓　郵稅八錢

秋野孝道老師著　禪の骨髓　定價一圓　郵稅八錢

原僧運老師著　禪の捷徑　定價一圓　郵稅八錢

荒井淚光先生著　道元禪師　定價一圓　郵稅八錢

原田祖岳老師著　參禪の階梯　定價一圓　郵稅八錢

東京府小石川原町　東京一五六八六　丙午出版社

東京府小石川原町　東京一三五三　鷄聲堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

脳病精神病専門

東京巣鴨町四丁目巣鴨電車終點先二丁

巣鴨脳病院

（長電話番町三〇九八）

院長 醫學博士 石川貞吉

入院隨意

●らい病(びやう)

患者(くわんじや)と血統(けつとう)者(しや)に急告(きふこく)す

秘密療法及豫防新書を送費二錢送れば無代送呈す一日遲れば千日の悔あり今直に申込め秘送は小包料八錢要

東京下谷車坂町五二 福田秋水

脳神經精神病

東京赤坂

帝國脳病院改

青山脳病院

院長ドクトルメヂチーネ 齋藤紀一

醫學士三名

田澤醫學士

特長

電芝二七四五

電芝二六六五

電芝三六七四

皮膚病一切 たむし〜の妙藥

タムシン

東京市京橋區入舟町四丁目

本舗 橋本進世堂

歯科治療

自午前六時 至午後十時

吉瀬歯科醫院

東京市日本橋區坂本町三十番地

院長 吉瀬才市郎

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

本社取次書籍雑誌

西川光次郎著 ウヰリヤムブース言行録　定價廿五錢　郵税四錢

トロー言行録　同

ガンベッター言行録　定價廿五錢　郵税四錢

悪人研究（品切）　定價五十錢　郵税六錢

續悪人研究（品切）　同

神道綱要　定價十錢　郵税二錢

救世軍　同

心懐語　定價五十錢　郵税六錢

實踐道徳簡易入門　定價四十五錢　郵税六錢

偉人の戀物語　定價七十錢　郵税八錢

新渡戸博士の『修養』評論　定價二十五錢　郵税四錢

實驗早老豫防法　定價五十錢　郵税六錢

高野重三著 婦人問題早わかり　定價七十錢　郵税八錢

中尾湍太郎著 今日の廣告學　定價五十錢　郵税四錢

西川文子著 婦人解放論　定價一圓　郵税八錢

西川文子著 新しき女の行くべき道　定價五十錢　郵税六錢

新眞婦人合本（自一號至十二號）　定價郵税共一圓

合本 第二巻（自十三號至二十四號）　同

西川光次郎主筆

自働道話

▲四六倍形八頁
▲一部郵税共三錢五厘
▲一年同卅錢
▲毎月十日發行

平易簡明に、實踐道徳、新道徳を説く雑誌にして、六月號の要目左の如し。

無反省なる青年△引込思案にならぬ工夫（西川光次郎）△鐵道と一日一善、福富孝俊）△淘宮一班（革新淘宮術會長竹内師水）△心學道話の由來と其の効果△中日懇話會設立に就て（福田關次郎）△健康問答（問愛天）

東京本郷駒込林町二〇六
振替東京二四五五六

新眞婦人社

嗜好は其の人格を示す

高潔にして高尚なる淑女は

日本名物

クラブ白粉の

清楚なる化粧を愛す

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

To Use
"Lion" Toilet Soap
Means the Health,
Cleanliness,
Comfort and
Beauty of Skin.

Absolutely
Pure and Great
Economical Soap
is "Lion."

T. KOBAYASHI & Co.,

KANDA, TOKYO.

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA